

事 業 報 告

1 法人本部

令和5年度は、第五期中期基本計画（令和3～5年度）の最終年として法人本部、障害、児童、高齢部門とも、計画に基づき事業に取り組んだ。また併せて、第六期中期基本計画の策定も行った。新型コロナウイルス感染症の防止に取り組みつつ事業を行い、利用者数はコロナの影響もあり、退所者や休所者等が多い事業所もあったが、前年度を上回った。

特徴的な事業としては、障害者総合センターをはじめとする法人所有4施設の大規模修繕計画及びそれに関連する中期財政計画の作成、検討を行った。また人材育成方針も見直し、職種別に求められる知識や技能などを追加した。評価制度も改正しての初めての実施年度であったが、概ね制度を運用実施することができた。職員採用においては、退職者も多く、最近では最も難航したが、新卒者採用6名を含め着実に採用活動を行い、職員を配置した。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数（延数/年間）				（前年度比）
障害者施設	施設サービス	107,961名	（前年度 107,164名）	797名増
	相談支援等	29,380件	（前年度 30,670件）	1,290件減
児童施設	施設サービス	10,264名	（前年度 7,880名）	2,384名増
	相談支援等	4,727件	（前年度 4,495件）	232件増
高齢者施設	施設サービス	27,321名	（前年度 27,290名）	31名増
	相談支援等	11,144件	（前年度 9,666件）	1,478件増
合 計	施設サービス	145,546名	（前年度 142,334名）	3,212名増
	相談支援等	45,251件	（前年度 44,831件）	420件増

※これまで障害者施設の中に含めていた児童施設を抜き出して表記

2 理事等役員及び職員数及びボランティア数		（令和6年3月31日現在）
理 事	7名	正規職員 190名（前年度比 4名減）
評 議 員	9名	嘱託職員 38名（前年度比 3名増）
監 事	2名	臨時職員 123名（前年度比 3名増）
第三者委員	3名	職員合計 351名（前年度比 2名増）
ボランティア数		延 1,354名

3 苦情解決等	苦情受付件数	35件（障害者施設 30件 児童施設 4件 高齢者施設 1件）
	人権擁護虐待等受付件数	3件（障害者施設 3件 児童施設 0件 高齢者施設 0件）

4 職員採用、異動等（正規職員のみ）

- (1) 採用 15名（一般支援 11名 看護師 2名 保育士 1名 一般事務 1名）
 退職 21名（一般支援 17名 看護師 3名 理学療法士 1名）*内、定年退職者 4名
 (2) 人事異動 29名（昇任 11名 配置転換等 18名）

5 資格取得者数（令和6年3月31日現在 延数）

社会福祉士	83名	介護福祉士	78名	介護支援専門員	38名
精神保健福祉士	17名	看護師・保健師	21名	保育士	24名
理学療法士	3名	作業療法士	4名	言語聴覚士	3名
公認心理師（臨床）	7名	管理栄養士・栄養士	4名	初任者（実務者）研修	35名
サービス管理責任者	55名	相談支援従事者	32名	児童発達支援管理責任者	7名

喀痰吸引、胃ろう(経管栄養)実地研修修了者 26名 強行養成研修(基礎・実践)102名
※資格取得支援制度による合格者 11名(前年度6名)

6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 令和5年5月29日(月) 対面・オンライン開催(出席者7名/7名中)
- ① 議案第1号 令和4年度事業報告について
 - ② 議案第2号 令和4年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ③ 議案第3号 令和4年度決算附属明細書について
 - ④ 議案第4号 令和4年度財産目録について
 - ⑤ 議案第5号 令和4年度社会福祉充実計画の承認について
 - ⑥ 議案第6号 次期理事及び監事の候補者について
 - ⑦ 議案第7号 定時評議員会の招集について
 - ⑧ 議案第8号 役員等賠償責任保険の契約について
 - ⑨ 報告事項 理事長の職務執行状況について/その他
- (2) 第2回理事会 令和5年6月27日(火) 対面・オンライン開催(出席者7名/7名中)
- ① 議案第9号 理事長互選
 - ② 議案第10号 第三者委員会(苦情解決及び人権擁護虐待防止等)委員の選任について
 - ③ 報告事項 その他
- (3) 第3回理事会 令和5年9月15日(金) 書面開催(出席者7名/7名中)
- ① 議案第11号 施設長人事の同意について
- (4) 第4回理事会 令和5年11月28日(火) 対面・オンライン開催(出席者7名/7名中)
- ① 議案第12号 法人所有施設 大規模修繕計画について
 - ② 議案第13号 中期財政計画について
 - ③ 報告事項 理事長の職務執行状況について/武蔵野福祉作業所の建替えについて/その他
- (5) 第5回理事会 令和6年3月13日(水) 対面・オンライン開催(出席者7名/7名中)
- ① 議案第14号 第六期中期基本計画(案)について
 - ② 議案第15号 法人所有施設大規模修繕計画(案)について
 - ③ 議案第16号 中期財政計画(案)について
 - ④ 議案第17号 令和5年度収支補正予算(第1回)(案)について
 - ⑤ 議案第18号 令和6年度事業計画(案)について
 - ⑥ 議案第19号 令和6年度収支予算(案)について
 - ⑦ 議案第20号 個人情報保護規程(個人情報に関する基本規程)の全部改正について
 - ⑧ 議案第21号 奨学金返還支援規程の制定について
 - ⑨ 議案第22号 施設長人事の同意について
 - ⑩ 報告事項 理事長の職務執行状況について/人材育成方針〔Ver.2〕について

7 評議員会の開催

- 第1回評議員会 令和5年6月26日(月) 対面・オンライン開催(出席者9名/9名中)
- ① 議案第1号 令和4年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
 - ② 議案第2号 令和4年度財産目録について
 - ③ 議案第3号 令和4年度社会福祉充実計画の承認について
 - ④ 議案第4号 理事の選任について
 - ⑤ 議案第5号 監事の選任について
 - ⑥ 議案第6号 第三者委員会(苦情解決及び人権擁護虐待防止)委員についての意見聴取について

⑦ 報告事項 令和4年度事業報告/その他

8 事業並びに会計監査 令和5年5月15(月)～19日(金) (安田大監事、西田恵子監事)

令和4年度事業及び会計監査を施設長と会計担当者からヒアリング、実地監査、書類審査等

9 各種会議・委員会・プロジェクトの開催

- (1) 経営企画会議 毎月2回開催 法人経営、施設運営に関する報告、検討、協議、決定等
採用や人事関連の規程整備等の人事給与検討委員会も兼ねた
- (2) 施設長会議 毎月2回開催 経営企画会議を受けて事業報告、検討、協議、決定等
- (3) 中期計画進捗会議 毎月開催 第五期中期基本計画の進捗状況の確認及び第六期計画の策定
- (4) 苦情解決第三者委員会 利用者及び家族等の苦情解決に向けての協議、対応等 R5.6.13 開催
- (5) 中央衛生委員会 年4回開催 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施
- (6) 人権擁護虐待防止及び身体拘束等適正化委員会 利用者への虐待防止の取り組み R5.11.14 開催
- (7) 医療的ケア等に係る事故防止委員会 医療的ケア等の実施状況と対応策等検討 R5.9.7 開催
- (8) 情報セキュリティ委員会 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施(施設長会議で毎月開催)
- (9) リスクマネジメント委員会 事故事例検討、再発防止対策等の協議(施設長会議で毎月開催)
- (10) 広報委員会 法人ホームページ運営(法人・施設の最新情報を毎月更新)SNS 管理
法人広報紙「ふれっそ」を年3回発行(第60号から62号)
法人内月報「武蔵野日記」を隔月発行(第150号から第155号)
武蔵野ポータルサイトの運用(法人内の連絡、情報、様式等の閲覧、共有)
- (11) 災害対策委員会 大規模災害等のBCP作成、訓練、協議 職員参集基準変更
- (12) 第14回実践発表会 令和5年12月8日(金) 参加者127名 今年度より指定4施設による発表
発表4事業所(ゆとりえ支援、けやき、リエゾン、ハビット) 武蔵野公会堂
- (13) 快適職場アクション2023 誰でもどこでも相談室(毎月第三火曜日)相談者:精神保健福祉士(外部)
新任施設長、係長、主任面談、職場環境改善への取組等
ストレスチェックの実施(令和5年7月14日～31日)
- (14) 職員確保プロジェクト 学校等へ広報活動、各種就職セミナー参加、人材紹介会社活用他
中途採用者10名、新卒者5名、合計15名採用
令和5年度採用内定式 令和5年10月4日(水) 先輩職員との懇談会等
- (15) 武蔵野福祉作業所建て替えプロジェクト 建て替えに向けた検討、準備、対応他
- (16) 法人利用説明会 特別支援学校等卒業生の障害者施設利用に向けた説明会
教員向け R5.4.25 保護者向け R5.5.17
- (17) 研修委員会 職員研修計画、企画、検討、実施運営 随時開催
 - ①初級職員研修(対象:1～3年目職員)
 - ・ 採用時新人職員研修(対象:新人職員) 全4回 講師:株Co-Lab 伊藤先生他
実施日 令和5年4月3～5日他9月、10月、11月実施 参加者18名
内 容 法人及び各事業所の概要と課題、支援・介護の基礎、各種規程等の講義
 - ・ 半年後新人職員研修(対象:新人職員) 参加者12名
実施日 令和5年10月16日(月)
内 容 理事長講話、アサーティブ基礎編 講師:人材育成コンサルタント三好良子先生
 - ・ 初級職員研修(対象:2年目職員) 参加者15名
実施日 令和5年9月25日(月)
内 容 理事長講話、アサーティブ応用 講師:人材育成コンサルタント三好良子先生

- ・ 初級職員研修（対象：3年目職員） ※第3回目は2年目職員14名 視聴参加
 実施日 第1回 令和5年10月2日 研修説明会 オンライン研修 参加者13名
 実施日 第2回 令和5年11月9日 構想発表グループワーク参加者13名
 実施日 第3回 令和6年1月16～19日 実践発表会 オンライン発表 発表者13名
 内 容 提案力・伝達力・育成力強化のための業務上の課題、取組、成果を各自発表
- ②ファシリテーション研修（対象：3年目研修のファシリテーター職員への研修） 参加者6名
 実施日 令和5年9月13日（水）
 内 容 ファシリテーション基礎講座 講師：メンタルクリエイト 江口毅先生
- ③中堅層・リーダー層研修（対象：3年目研修を終えた4～5年目職員） 参加者16名
 実施日 令和6年2月6日（火）
 内 容 「人を育てる人になる」人材育成を学ぶ 講師：C&P, etc. 代表 尾崎眞三先生
- ④施設長・係長級職員研修
 - 1. 評価者研修 参加者30名
 実施日 令和5年4月6日（木） 講師：メンタルクリエイト江口毅先生
 内 容 「100分 de 評価制度 面談で押さえるべきポイント」
 - 2. 労務管理研修 参加者33名
 実施日 令和5年9月1日（金） 講師：株式会社インソース吉田英策先生
 内 容 「人材育成のポイントと労務リスク対策について」
- ⑤ 個人情報保護研修 情報セキュリティハンドブックの読み合わせ、事例研鑽、全事業所実施
- ⑥ ハラスメント研修 対面及び後日、全職員がオンライン YouTube にて受講 対面参加者48名
 実施日 令和5年11月13日（月） 講師：株式会社ヒューマン・クオリティ樋口ロミ先生
 内 容 カスタマーハラスメント研修

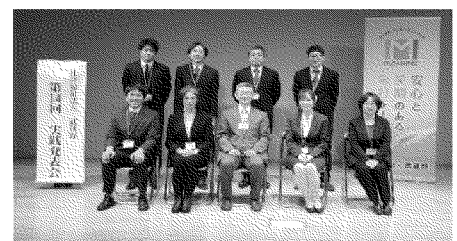
10 令和5年度事業説明会 令和5年4月13日（木）（対面/オンライン）参加者対象：全職員
 理事長講話、障害者福祉課長挨拶、今年度事業計画、事務連絡、新人職員紹介

11 新型コロナウイルス感染症対策 罹患報告、状況確認、対応協議等（経営企画会議で）

12 地域交流 第21回むさしのあったかまつり 令和5年10月21日（土）参加者1100名
 むさしのエコre ゾート 屋台、作品展示、ゲームコーナー、フリーマーケット他

13 その他

- (1) 会計監査の実施 会計事務所による会計監査の毎月実施（月次会計相談及び消費税計算等）
- (2) 労務・法務相談 社会保険労務士及び弁護士による労務管理及び法務の相談の毎月実施
- (3) 外部監査 無し
- (4) 安全運転管理業務 安全運転講習会は未実施 法人保有車両40台 自転車46台



第14回実践発表会 令和5年12月8日

2 ワークセンター大地

1 事業運営

令和5年度は、4月に特別支援学校を卒業した2名が入所し、そのうちの1名が8月に他県に転居した（新規利用2名、退所1名、登録利用者37名）。

新型コロナウイルス感染症の5類化を受け、活動内容や送迎体制を段階的にコロナ禍以前の状況に戻していった。しかし、ご利用者の中には70歳台のご高齢の方や心疾患等重症化リスクの高い方もおられるため、活動中の検温を継続することや、体調不良者発生時は活動内容やケア内容を変更するなどの感染対策の強化は引き続き実施した。結果的に年間通じてご利用者の罹患は3件だった。

事業運営に関しては、受注作業を中心に軽作業を軸としつつ、身体を動かしながら作業にもなるポスティングや公園清掃なども積極的に実施した。そのほか、これまで自粛していた小グループでの外出活動も再開し、遊園地やボウリング、水族館などの行先をご利用者がご自身で選べるようにして計画、実施した。

高齢化や障害の重度化について、必要に応じて一時的に通院同行や医療機関との連携を図って対応した。このようなニーズは今後も一定程度見込まれるので、相談支援事業所等とも連携を図りながら、よりよいご利用者支援につなげていきたい。

家族会は予定通り年3回、対面で実施することができた。そのうち1回は親の会向けに、事業所の報酬構造に関する勉強会も併せて実施し、好評だった。

2 利用者の状況と活動内容

（令和6年3月31日現在、単位：人）

(1) 利用者数 （定員40名）

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	25	2	1	26
女性	11	0	0	11
合計	36	2	1	37

(2) 障害者総合支援法による障害支援区分 （平均 4.0）

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	9	22	6	0

(3) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 8,212人（通所サービス日数 243日） 1日平均 33.8人 （84.5%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
691	694	760	672	727	649
10月	11月	12月	1月	2月	3月
695	685	686	626	629	698

(4) 活動内容

グループ	作業活動	生活活動
サンカ	軽作業、受注作業（キャンプ道具や救急セットの封入）、和紙づくり、自主製品等の作業（押し花コースター、葉づくり、ビーズ）、チラシ配布、ポスティング、他	図書館活動、買い物、音楽鑑賞、一日外出、お楽しみ会
ナナカ ハッカ	受注活動（食品関係、封入封緘等、折り作業）、軽作業、紙作業、公園清掃、石拾い、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	スポーツ（ウォーキング、室内運動、市主催のスポーツ広場）、図書館活動、iki なまちかど保健室の活動参加、一日外出、お楽しみ会

(5) 工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。

2023 年度工賃支給総額 1,987,130 円

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習の受け入れ等

- ・ 特別支援学校生徒 9 名（27 日間）
- ・ 社会福祉士実習生（1 名）、医学部実習（1 名）、夏体験ボランティア（1 名）

(2) iki なまちかど保健室とのオンライン活動と手話ソング発表会の開催

(3) にじの糸（裁縫ボランティア団体）の協力を得て、創作活動の素材を商品化した。

4 職員研修

(1) 事業所内研修

つむラボ／権利擁護虐待防止研修／情報セキュリティ研修／感染症研修／防災合同研修／ケース検討会／報酬・加算勉強会／BCP（事業継続計画）研修

(2) 法人研修

3 年目研修／中堅層リーダー層研修／実践発表会／事業所間職員交換研修（りぷるに 2 名 6 日間派遣）

(3) 外部研修

東京都社会福祉協議会リーダー研修／武蔵野市地域包括ケア人材育成センター管理者向け研修／武蔵野市精神保健福祉研修 等

5 苦情受付件数

0 件

6 人権擁護虐待等受付件数

0 件

3 デイセンター山びこ

1 事業運営

令和5年度は新卒の新規利用者が2名加わり総勢47名でスタートしたが、年度内にサービス移行で5名の方が退所、また新規利用者のうち1名が12月に逝去された。7月には途中で新規利用者が1名加わった。退所の5名の行先は4名が入所施設、1名がグループホーム（同法人内の生活介護も利用）となっている。

事業運営に関しては、日常活動の充実をテーマに、いままで取り組んできた活動を点検しなおし、ご利用者にとってよりわかりやすく、意欲的に取り組みやすい進め方の検証をおこなった。この結果を令和6年度の活動計画で実行に移す。またグループの垣根を超えたプログラムの開発や地域資源と連携した販売や交流活動に力を入れた。またセンター内生活介護事業所間での職員の相互協力も実施した。

特別支援学校の1、2年生を対象とした夏体験では7名が実習に参加しており、令和6年度（2024年度）は2名の新卒者が入所予定。今後も山びこの利用ニーズは増えていくものと思われる。

2 利用者の状況と活動内容

（令和6年3月31日現在、単位：人）

（1）利用者数（定員40人）

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	32	2	5	29
女性	13	1	1	13
合計	45	3	6	42

（2）障害者総合支援法による障害支援区分（平均4.8）

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	15	19	7

（3）年間利用状況

延べ人数 年間合計 9152人（通所サービス日数 243日） 1日平均 37.6人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
750	757	844	781	795	699	806	781	766	710	712	751

（4）活動について

《基本活動》 5グループにより、メイン活動（織物、缶回収、地域活動、創作活動、健康など）を中心に活動を提供した。またこれまで取り組んできた活動の見直しを行い、次年度のグループごとの活動計画を作成中。そのほか、グループの垣根を超えた活動枠（クロスグループ活動）の創設や地域資源を活用した活動のさらなる充実に取り組んだ。

《各種イベント等》

成蹊学園学生交流企画、軒下フェスタ出店、成蹊学園けやき循環プロジェクト、クリスマスマーケット、小さな輪っか展開催、春の日（年度終わりの集い） など

（5）その他の活動

①保健・給食

- ・健康管理として、健康診断（2回）
- ・給食について、栄養士とも連携し、利用者の状況に合わせた給食を提供した。
- ・職場内研修として、感染症予防研修と対応研修を行い実践した。

②防災（避難）訓練

実際に避難する訓練の計2回実施した。

③家族関連

家族会は1、8、12月の計3回、集合形式で開催した。

個別面談はご利用者の誕生月前後に日程を定め、年間を通して実施した。

④広報

広報紙「やーっ報」を年2回発行した。

⑤工賃の支給について

事業所の支給規定により毎月工賃計算を行い、半年ごと(年2回)全ての利用者に支給した。1年間の支払い総額は1,549,060円であった。

3. 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習の受け入れ、

- ・特別支援学校 10名
- ・社会福祉士実習生、福祉・医療系大学生等 4名

(2) 活動における地域資源の活用

- ・成蹊学園：学生との交流イベント企画、けやき循環プロジェクトへの参加
- ・グリーンパーク商店会：軒下フェスタへの出店、交流スペースでのクリスマスマーケット
- ・市役所：市役所正面玄関で小さな輪っか展開催
- ・こびと農園：ウィズの畑での園芸活動でこびと農園の鈴木氏とコラボ活動を開始

※いずれも利用者参加型の山びこ企画

4. 職員研修

①職場内部研修・3事業所合同研修

権利擁護虐待防止研修／情報セキュリティ研修／音楽療法

感染症研修／居住との交流研修／高齢化対策研修／ハラスメント研修

／防災研修 等

②法人研修

2、3年目職員研修／実践発表会／施設長研修／係長研修 等

③外部研修

東京都障害者通所活動施設職員研修／強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)

東京都社会福祉協議会主催研修／東京都社会福祉協議会福祉人材センター主催研修

社会福祉士実習指導者講習 等

他、施設長・副施設長が他法人等の研修で複数回講師を務めた。

5. 苦情受付件数 0件

6. 人権擁護虐待等受付件数 0件

4 デイセンターふれあい

1 事業運営

令和5年度は23名から始まったが、4月に1名、1月に1名が退所されたため、年度末は21名の在籍となっている。また、体調を崩してしまった方や入院する方も多く、稼働率は前年度より低くなった。

重症化リスクの高い方々が多く通所されているため、感染症対策を引き続き講じながら、半日外出や地域交流、生演奏の音楽などの活動も再開した。

プロジェクトとして、意思決定支援と創作活動を検討するDCFとに分かれて毎月ミーティングを行った。意思決定支援では、長年続けてきたプロジェクトの内容を振り返り、ケース支援会議、日々の関わりの中での気づき、ふれあいで大切にしたいこと、記録の仕方などを改めて確認し、まとめの年とした。またDCFでは、法人全体の創作活動チーム「つむぐと」と連動し新しい販売委託先とつながり、吉祥寺での輪っかになるう展を4年ぶりに再開したことをはじめ、様々なイベントに参加し作品販売をする機会が増えた。それにより、売り上げも前年度より2倍近くになっている。

医療的ケアについては、日常的に看護師と支援員との連携・協働ができるように進めた。医療的ケアの量が増えた方や医療的ケアが必要な方の通所日数を増やしたが、喀痰吸引等研修の実地研修を進め、支援員が医療的ケアの一部を担えるようにし、協力しながら活動を進めた。看護師間でも引き続き定期的なミーティングを行い、手技や対応方法の共有を行うことにより利用者のケアに活かすことが出来ている。

2 利用者の状況と支援内容

(令和6年3月31日現在 単位:人)

(1) 利用者数 (定員 20名)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	12	0	2	10
女性	11	0	0	11
合計	23	0	2	21

(2) 障害者総合支援法による障害支援区分 (平均 5.5)

区分	1	2	3	4	5	6
	0	0	0	2	5	14

(3) 年間利用状況

延べ人数 3635 人 (通所サービス日数 244 日)

1日平均 14.9 人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	314	255	336	287	323	295	328	308	300	285	287	317

(9) 活動について

①感染対策を講じながら、半日外出や地域交流

②作品販売: マジェルカ・あめつち(セレクトショップ)での委託販売、武蔵野東学園祭・むさしのあったかまつり・タワーズマルシェ・エコマルシェ・クラフト展・輪っかになるう展・小さな輪っか展・吉祥寺美術館等での販売を行った。

作品の1年分の売り上げから材料費(30%)を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として9月と翌年4月に配分した。 合計 480,905 円

③作品展示：中央コミセン、杉並大芸術祭展示等を行った。

④季節行事：夏まつり、クリスマス会、新年会と成人を祝う会を、感染症対策をしながら行った。

3 地域関連機関や団体との連携等

(1) 実習の受け入れ

- ・特別支援学校生徒 1 名
- ・社会福祉士実習生 1 名

4 職員研修

(1) プロジェクトチーム

DCF(創作活動)、意思決定支援の二つのグループにより、支援や介護の内容や質の向上を目指して取り組んだ。

(2) 法人研修及・職場研修・外部研修

意思決定支援勉強会、感染症対策研修、ケース検討会議、創作活動研修、ハラスメント研修、メンタルヘルス研修、情報セキュリティ研修、権利擁護虐待防止研修、医療的ケア看護師講習会、高次脳関係機関連絡会研修、成年後見制度研修
サービス管理責任者基礎研修、社会福祉施設長資格認定講習
東京都障害者通所活動施設職員研修、喀痰吸引(3号者)研修、当事者家族による研修等

5 苦情受付件数 1 件

6 人権擁護虐待等受付件数 0 件

7 その他

(1) 保健・給食

- ① 機能訓練・理学療法士(週1回)の助言を受け、機能訓練の実施
- ② 健康管理・健康診断(2回)
- ③ 摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮

(2) 防災(避難)訓練

年2回実施、「防災」をテーマにした活動でも避難訓練を行った。

(3) 家族関連

家族会は4月26日、7月26日、11月22日の年3回、集合形式で実施した。

また、年度末に支援計画をもとにした個別面談を実施し、ご本人やご家族と1年間の振り返りを行い、ご要望等も踏まえて次年度計画を作成するための話し合いを行った。

(4) 広報誌

ふれあいの活動をご家族や関係者にお伝えするために、広報誌「日々是充実」を年2回発行した。

5 地域生活支援センターびーと

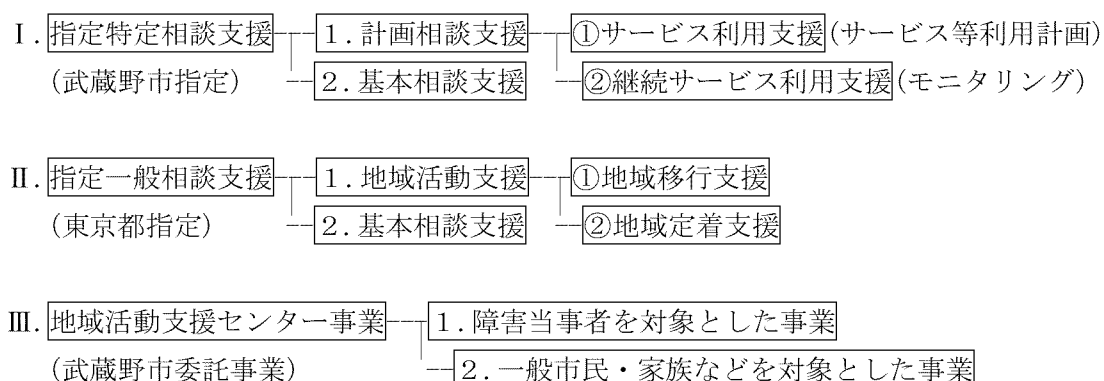
1 事業運営

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けて、これまで感染対策として講じていた内容を、改めて現状に則した対策に変更しながら事業を展開した。また、令和4年度に試行したプログラムを、地域活動支援センタープログラムとして新規に定例開催している。

なお、地域生活支援拠点等事業参画に当たり、対象6件を拠点コーディネーターにつなげた。

更に、感染症並びに自然災害の事業継続計画や、虐待・ハラスメントの防止、地域生活支援拠点等事業を担う事業所としての項目を、運営規程に明記し東京都と武蔵野市に提出している。

～びーと事業の体系～



2 利用者の状況と活動内容

(1) 相談支援の集計（地域活動支援センター事業と相談支援事業の相談支援件数）

① 相談支援の傾向（地域活動支援センター事業、指定特定・指定一般相談支援事業）

昨年度は感染対策の大幅な緩和により大きく増加したが、概ね安定した件数に落ち着いた。

② 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：19,774 件(年間延べ合計)

新規相談者件数：41 人 ※地域活動支援センター事業 15 人・計画相談 26 人(重複含む)

相談実人員数（障害種別と月別の相談者人数）

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
身体	24	25	28	28	22	29	28	23	25	28	28	27	26.25
重心	2	3	5	5	1	2	2	3	5	3	3	1	2.9167
知的	240	252	237	239	174	238	249	246	246	250	254	232	238.08
精神	5	4	7	7	6	8	5	5	8	6	5	6	6
発達	3	6	4	3	2	4	5	4	5	5	4	5	4.1667
高次脳	3	3	4	3	2	2	2	1	1	1	3	2	2.25
重複	18	18	18	17	15	16	18	17	18	18	18	16	17.25
他	4	3	1	1	1	3	1	1	1	1	3	1	1.75
合計	299	314	304	303	223	302	310	300	309	312	318	290	

③ 相談者内訳 (合計値: 19,774 件)

区 分	件数	区 分	件数
福祉サービス利用	8202	家計・経済	107
障害・病状の理解	657	生活技術	271
健康・医療	2086	就労	203
不安解消・情緒安定	2589	社会参加・余暇活動	4553
保育・教育	83	権利擁護	139
家族・人間関係	282	その他	602

(2) 地域活動支援センター事業～順不同～

(単位: 人)

区分	手芸	パソコン (グループ)	パソコン (個別)	道場	上映会	体験塾
人数	157	47	179	143	89	51
区分	ダンス	ヨガ	サマーセミナー	びあクラブ	スイーツ 女子会	合計
人数	161	213	10	56	10	1, 116

※その他、フリースペース:1084 件、地域生活支援拠点等事業:259 件、あったかまつり関連業務:212 件、自立支援協議会:248 件、そうだネむさしの:60 件、大野田福祉の会交流広場:60 件

【活動内容】～順不同～

新型コロナウイルス等の感染症対策を講じ、運営上配慮し開催

- 北町道場…創作活動や軽運動などを行いながら、参加者同士の交流をはかる
- ダンス倶楽部…障害者スポーツ指導員を講師に迎え、ダンスに楽しく取り組む
- パソコン教室…パソコンの初歩的な学習教室。個別とグループの2つの形態により開催
- びあクラブ…ウォーキング、ボッチャ、発表会など、少し大きな単位で土曜日に開催
- 北町上映会…動画を鑑賞しながら交流を図っている
- 手芸教室…参加者個々が思い思いの作品作りに挑戦する趣味活動支援
- ヨガクラブ…インストラクターを講師に迎え、ヨガに楽しく取り組む
- くらし体験塾…おしゃれ身だしなみ、家事、防災というテーマを取上げ生活力をつける
- 基本相談…生活上の悩みなどの様々な相談に応じる(計画相談とは異なる相談支援事業)
- 女子会…女性登録者を対象に、活動を通じて女性同士の交流をはかる
- 公開セミナー…「知的障害のある方の意思決定支援」をテーマにした市民向け講演会
- 見学対応…利用に向けた検討の一環や学習のための施設見学等の支援
- サポータークラブ…学生や一般市民によるびーと活動へのボランティア参加
- 市民向け事業…フリースペースの運営や福祉情報の提供など一般市民向け事業
- 大野田福祉の会…障害者総合センター地区の福祉の会への参加・活動支援
- 市民団体への協力…市民の会や当事者・家族の集まりなどに対する協力
- 当事者学習会…サマーセミナーと称して生活力を向上させる当事者対象の生活学習会
- 相談ネットむさしの…市内相談支援事業者等のネットワーク連絡会

＜感染症対策のため、休止した活動＞(飲食や調理による感染防止対策の為、休止と判断)

- わくきん…「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
- みんなのキッチン…調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
- 集まろう会… 一般企業等就労者対象の当事者活動
- 北町食育くらぶ…季節の行事を題材に、食をテーマにした学びの機会を提供する活動

(3) 月別の相談・来所者集計

地域活動支援センター事業関係の1日当たりの相談と地活事業参加者の月別平均来館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	13.2	12.2	11.2	13.7	12.6	14.0	14.4	11.8	18.4	11.7	14.1	14.7

※フリースペースの利用や地活プログラムでの来館者数を月の稼働日で算出

引き続き、感染症等による生活変化の影響により来館者が月によって減少傾向だった。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市地域自立支援協議会（2年任期の1年目の年度）

自立支援協議会の「親会議」委員として、相談支援事業所の代表者区分で副施設長が出席。
会長からの指名を受けて、副会長の職を担っている。

今年度は、3年ごとに策定される市計画の委員（武蔵野市障害者計画・第七期障害福祉計画
専門部会）も兼務した。

合わせて、相談支援ネットワーク部会の担当委員として部会活動にも参加している。

また、住まい部会、地域移行部会にびーと職員を各1名ずつ派遣。

今回の任期は、令和5年度と6年度の2年任期となっている。

(2) 市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー（学習会企画）

○市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

開催日：令和5年12月 6日（水） 午前10時から午後12時 生配信

令和5年12月13日（水） 2週間の期間、録画したものをYouTubeにて配信

テーマ：「知的障害のある方の意思決定支援とは？」

講師：渡邊浩文氏（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科教授）

内容：・知的障害のある方の意思決定支援を具体的事例等をもとに解説

・資料を基にご説明いただいた。

・講演後に、受講者からの質問などにメールにて回答いただいている。

参加者：生配信13名、録画配信116名

○当事者向けサマーセミナー（学習会）

開催日：令和5年9月2日（土）10:30～12:00

テーマ：「毎日の食事について考えよう～おいしく食べて今日もごきげん！」

講師：林純子氏（公財）武蔵野健康づくり事業団

健康づくり支援センター人材バンク登録講師 管理栄養士

内容：・パワーポイントを用いた講義（座学）

・昨日の夕食や当日の朝食を記入し栄養について考える個人ワーク

・クイズ形式の講義、質疑応答など

会場：武蔵野障害者総合センター イベントホール

参加者：びーと登録障害当事者10名

4 職員研修（主なものを抜粋して記載）

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
相談 支援	相談支援従事者研修	相談支援員専門員主任研修	東京都相談支援ネット
	障害・高齢虐待防止研修	虐待の概念理解	東京都福祉保健局
	精神保健福祉研修	利用者・家族とのコミュニケーション	多摩精神保健福祉センター
	障害福祉サービス報酬改定	令和5年度報酬改定学習研修	東京都相談支援ネット
専門 分野	強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎・実践	東京都保健福祉財団
	訪問系 BCP 策定講座	障害者支援施設対象策定講座	東京都福祉保健局
	上級救命講座	救命講習上級新規講習	保健福祉センター
	地域療育講習会	府中療育センター通所事業紹介	府中療育センター
知識	メンタルヘルスケア研修	ラインケア研修	東京都福祉保健局
	精神保健福祉研修	精神科領域の疾患の理解	多摩精神保健福祉センター
	しょーとてんぱー研修	障害のある方の住まい研修	しょーとてんぱー
	精神保健福祉研修	障害年金・法律問題研修	多摩精神保健福祉センター
運営	法人管理職研修	労務管理研修	社福武蔵野
	こころといのちの基礎研修	命を支えるための支援研修	武蔵野市健康課
	情報セキュリティ研修	個人情報等の扱いに関する内容	武蔵野市情報政策課
	法人評価者・被評価者研修	職員人事評価者・被評価者研修	社福武蔵野

※・上記の他に法人組織職員研修や事業所内の支援会議などを通じて専門性の向上をはかった。

・受講した職員より報告を行い、研修内容を伝達形式で共有している。

5 苦情受付件数 : 3 件

6 人権擁護虐待等受付件数 : 2 件

6 ワークセンターけやき

1 事業運営

事業理念「仕事を通してつながりをひろげ、自分らしく成長していく」に基づき、雇用契約を結んで仕事をしたい方から、社会人としてのマナーや働く習慣を身につけたい方まで、幅広い就労ニーズに応えるべく、より上質な就労機会の確保と個別支援の充実を軸に事業運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、利用者・職員の健康管理や器具消毒等を徹底して行った。一方、5類移行に伴う社会状況の変化に合わせて、食品店舗における制限を少しずつ緩和したり、再開される地域イベント等に積極的に参加したりした。また、お客様の利便性向上を目的として、キャッシュレス決済システム（さくらごはん）を導入した。

(1) 就労継続支援A型（定員 10 名）

働く力を有しながらも企業就労の機会が得られない方に対して、印刷部門および食堂部門（市役所 8 階さくらごはん）で雇用契約を結び、合理的配慮に基づいた労働環境を提供した。

(2) 就労継続支援B型（定員 30 名）

封入等軽作業や天然酵母パンの製造、販売、喫茶パールブーケの運営を行い、合理的配慮に基づいた作業環境を提供した。

2 利用者の状況と支援内容

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
A型(回)	70	71	76	71	71	55	54	50	49	46	49	52	714
B型(回)	511	510	549	487	500	500	496	501	486	457	459	513	5,969
計(回)	581	581	625	558	571	555	550	551	535	503	508	565	6,683

(1) サービス利用契約の状況

利用開始 0 名、終了 2 名（他サービスへの移行等）により、2 名減（34 名）となった。

(2) サービス提供時間

① 就労継続支援A型 … 9:00～16:00、週 5 日の勤務時間内で、精神障害のある方の短時間雇用も含み、利用者に応じて柔軟に設定した。

② 就労継続支援B型 … 8:00～16:00 の作業時間内で、利用者に応じて柔軟に設定した。

(3) 就労支援事業について

① 印刷・サイン（就労継続A型） 33,470,545 円

② 封入等軽作業（就労継続B型） 19,674,012 円（うち図書館委託業務 3,961,650 円）

③ 喫茶ベーカリー（就労継続B型） 23,761,981 円

④ 食堂（就労継続A型） 14,248,470 円 合計 91,155,008 円

前年度比は①△10.0%、②△4.1%、③+2.4%、④+15.4%、全体△2.2%と微減ではあるが、前年度並みの売上高であった。食品事業が新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にある一方、印刷事業は発注自体の減少が続いており、近年の売上高は依然下降傾向にある。

(4) 個別支援計画の策定

半期毎（年 2 回）に利用者個別面談を行い、モニタリングと個別支援計画の策定を行った。

(5) 関係機関との連携による生活支援の取り組み

主にグループホームや独居の利用者に対し、生活上必要な支援を各関係機関と連携して取り組み、利用者の円滑な地域生活や就業生活の維持に努めた。

(6) 余暇活動支援

年末営業最終日に利用者交流会（希望者のみ）を実施した。

(7) 学習活動支援

社会生活力の向上をテーマにグループ学習活動を行った。また個別ニーズに応じて、ジョブアシストいんくるの就活プログラムへのビジター参加枠を設けた。

(8) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

3 地域関連機関や団体との連携

ベーカリー部門における従来の取引先からの紹介により、市内の関係機関や店舗、保育園等との新規取引が増加した。また、5 年ぶりに再開された「桜まつり」に参加し、焼き立てパン等の販売を行った。

4 職員研修

(1) 事業所内全体研修（シフト勤務の職員がいるため、同内容で複数回実施）

① 6/28(水)、29(木) 法人理念、年間方針・重点目標、虐待防止・権利擁護、情報セキュリティ、令和 4 年度決算・令和 5 年度予算、障害のある方の「困り感」を考える、他

② 12/12(火)、14(木)、15(金)、18(月)、28(木) 感染症対策・嘔吐物処理の仕方

(2) 法人就労支援領域合同研修（けやき、いんくる、武蔵野福祉作業所、りぷる）

知的障害者の中年期・高齢期の支援（講師：志賀利一氏 11/7(火)実施、1～3 月 録画配信）

(3) 個別研修

東社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 中堅職員研修（1 名）、同 中堅職員重点テーマ強化研修（3 名）、都立多摩総合精神保健福祉センター 精神保健福祉研修（2 名）、東京障害者職業センター 就業支援基礎研修（1 名）、東京都 障害者虐待防止・権利擁護研修（1 名）、東京都 工賃アップセミナー（2 名）、他

5 苦情受付件数

2 件

6 人権擁護虐待等受付件数

0 件

7 その他

(1) 利用者・家族向け広報「けやきだより」発行（年 3 回）

(2) 防災訓練実施（年 2 回）

7 ジョブアシストいんくる

1 事業運営について

ジョブアシストいんくるは、就職を志す障害のある人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症となっても、感染対策に留意しながら従前通りの活動を継続して実施した。令和 6 年 4 月の雇用率の上昇を見据え、企業は採用活動を更に活発化させており、就職先の選択肢は広がってきているので、その分ご利用者と受け入れ企業のマッチングを考えて就職活動を展開しやすくなったと感じた年であった。

2 ご利用者の状況と活動（支援）内容

(1) 就労移行支援

① ご利用者の状況

令和 5 年度末登録者数（直 B アセスメント利用者 3 名を除く）（単位：人）

事業名（定員）	令和 4 年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和 5 年度末
就労移行（20）	22	15	10 (内 9 名就職)	27

年齢別ご利用者数（平均年齢 34.0 歳） 利用終了時もしくは年度末時点（単位：人）

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	1	15	10	2	2	0	0	30
女性	0	3	3	1	0	0	0	7
合計	1	18	13	3	2	0	0	37

障害・度数別ご利用者数 利用終了時もしくは年度末時点（単位：人）

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	2	0	0		
2	0	0	4		
3	0	1	11		
4	0	17			
5	0				
6	0				
なし				2	
計	2	18	15	2	37

- 令和 5 年度の 1 年間で 15 人が新たに利用を開始している。令和 4 年度と同程度の水準である。例年同様、新規ご利用者の多くは、各地域の就労支援センターや相談支援事業所などの関係機関から紹介を受けている。
- 平均ご利用者数は 21.3 人と昨年度（19.7 人）と比べて増加している。令和 4 年度より週 4 日以上利用される方が多かったことによる。
- 令和 5 年度ご利用者は累計で 37 名になり、平均年齢は 34.0 歳であった（利用終了時、年度末に利用継続の場合は年度末時点）。
- 令和 4 年度は精神保健福祉手帳所持者が過半数だったが、令和 5 年度は愛の手帳をお持ちの方が 18 名で約半数を占めた。手帳がない状態で利用を始めた方が 2 名いるが、開始時にはいずれも手帳申請中の状態であった。

② 就職者の状況

令和5年度 就職者の状況

(単位：人)

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	5	事務系	1	市内近隣	1
知的	4	事務補助系	1	都心部	2
身体	0	作業系	2	多摩地域	5
なし	0	店舗系	0	区部西部	1
計	9	厨房系	0	都外	0
(うち発達障害は4名)		清掃系	5	計	9
		計	9		

- 令和5年度は9名が企業等に就職した。
- 手帳種別では愛の手帳所持者が4名、精神保健福祉手帳所持者が5名。また、全体のうち4名が発達障害の診断、もしくは傾向があると言われている方である。
- 就職先の業務内容は事務系(事務補助含む)が2名、作業系(清掃・店舗運営など)が7名
- 就業地域は市内近隣(西東京市)が1名、多摩地区が5名、23区が3名
- 今年度就職者の就職先は以下の通り。
SOMPO チャレンジド(株)、グローブライド(株)、(株)JR 東日本クロスステーション、(社)福
敬心福祉会、(株)わらべやハートフル、(株)KDDI チャレンジド、河北リハビリテーショ
ン病院
開設以来(10年10カ月)では105人が就職し、のべ33人が離職に至っている。

③ 活動内容

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、ご利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

- 就労トレーニング(作業)
 - ・「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。(主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業)
 - ・企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験など施設外支援を多数実施した。また、東京しごと財団や東京労働局主催の企業体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く提供した。
- 就活プログラム

ビジネススキルアップ(ビジネスマナー)、パソコン講座、オフィスワーク(事務スキル)、メモのとり方、セルフラーニング(自習機会)など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、JSTなどご利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を幅広いご利用者層に合わせて多層的に設定し実施した。
- 就職準備(企業就労への支援)
 - ・履歴書作成や面接訓練などを、原則個別対応できめ細かく実施し効果を上げた。
 - ・求職活動や就職面接、実習、トライアル雇用に同行し、就職活動を支援した。

④ 活動時間

月曜日から金曜日、8:30～17:00の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

⑤ 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を月2回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を

策定し、3 か月ごとにモニタリングを行った。

⑥ 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の 3 分の 1 相当額を訓練手当として支給した。(年間平均で時間あたり 360 円を支給)

⑦ 就職後の定着支援

就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、就労定着支援事業(後述(2))の利用か各地域の就労支援センターへの移管を就職者に選択していただいた。

(2) 就労定着支援事業

① ご利用者の状況

令和 5 年度末登録者数

(単位：人)

事業名	令和 4 年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和 5 年度末
就労定着	22	9	11	20

- 就職後 6 ヶ月を経過しての登録になるため、順次契約を進め、9 名が新規利用開始となった。新規利用開始数としては令和 4 年度と同じ。
- 年度内終了者は 11 名。内 8 名は就職から 3 年 6 ヶ月が経過し、サービス利用期限満了を迎えた方である。終了後は住所地にある就労支援センター等関係機関に定着支援を引き継いでいる。3 名は年度内に退職

② 支援内容

- 毎月最低 1 回は就職者の方との面談を実施するのを基本に、必要に応じて職場訪問や通院同行、関係機関との連絡調整などを実施し、企業就労の継続を図った。
- 令和 5 年度もコロナ禍で実施してきたオンラインによる面談のニーズがあり、就職先等で日常的にオンラインシステムを利用している方を中心にオンライン面談を実施した。
- 就職者同士の交流機会である「就職者の会」は、令和 6 年 3 月、感染対策を十分にを行った上で飲食店にて食事会を実施。19 名の参加があり、食事をしながら自身の近況などを話し、交流を深めた。

(3) 生活困窮者就労準備支援事業・被保護者就労準備支援事業

① ご利用者の状況

事業名	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
生活困窮者・ 被保護者 就労準備	6	9	12	12

令和 5 年度も昨年度と同じく、疾病等により離職し、就職活動のサポートが必要となったケースや、新型コロナウイルス感染症の影響で就労日数・時間が減少したことにより、経済的に困窮されるケース、就労経験がほとんどなく、働くことの経験をしたいというニーズのある若者のケースなど、様々なケースの対応を行った。

② 活動内容

従来から行っている「就活カフェ」や個別の相談による支援を中心にしながらも、継続的にコミュニケーションプログラムや PC 講座、軽作業練習などのプログラムに参加する方も増えてきている。

また、新たな取り組みとして、令和 6 年 3 月、就職活動を進めるにあたり、自身の適性や興味の方向性を知りたい方を主な対象として、職業興味検査・適性検査の体験会を開催した。11 名(ご利用者 3 名、市役所・公社職員等関係者 8 名)の参加があり、就労準備支援事業の利用につながるケースもあった。

3 地域関連機関や団体との連携

就労移行・就労定着支援事業ではご利用者居住自治体の障害者福祉課や計画相談事業所、市区町村就労支援センター、生活困窮者・被保護者就労準備支援事業では武蔵野市生活福祉課や武蔵野市福祉公社と緊密に連携して支援を進めている。その他の支援機関は以下の通り。

(1) ハローワーク

- 三鷹、新宿、立川など、ご利用者の居住地を管轄する都内ハローワークは、求職登録をはじめ、面接会等新規求人情報の共有や障害者委託訓練の申込など、ご利用者の就職活動に必要な連携を実施している。
- ご利用者と企業のマッチングを向上させるための取り組みとして、ご利用者に居住地を管轄するハローワークのトータルサポーターと定期的に面談する機会を用意し、ご利用者のニーズや状況等を知っていただいた上で、ニーズに合い、力を発揮できそうな求人を紹介していただけるよう連携し、就職に結びつけている。
- 生活困窮者就労準備支援事業においては、自立支援調整会議等でのケースカンファレンスを通じてハローワーク三鷹の担当者と支援状況を共有し、支援上の役割分担をするなど必要な連携をしている。

(2) 東京障害者職業センター

就職者の職場適応を支援するジョブコーチの派遣等を通じ、支援の進め方などを協議しながら協働で支援を進めている。

4 職員研修

就労支援をはじめ、支援技術全般の向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- 就業支援基礎研修
- 職場適応援助者支援スキル向上研修
- 生活困窮者支援事業実施者向け研修 他

5 苦情受付件数

0 件

6 人権擁護虐待等受付件数

0 件

8 武蔵野市障害者就労支援センターあいる

1 事業運営

武蔵野市障害者就労支援センターは、「武蔵野市障害者等就労支援事業実施要綱」に基づき、障害者及び障害児（以下「障害者等」という）が安心して働き続けることができるよう、身近な地域においてその就労面及び生活面の支援を一体的に提供することにより、障害者等の一般就労の促進を図り、以って障害者等の自立及び社会参加の一層の促進を資することを目的に事業を実施している。開所から 17 年が経過し、登録者は 400 名を超えた。障害とニーズの多様化をはじめ、今後予定されている障害者総合支援法改正、雇用率の改定など、障害者雇用を取り巻く状況は大きく変化しているのに合わせ始めたいくつかの新しい試みを継続し、更によりものとするよう様々な工夫をしながら事業に取り組んだ。

2 利用者の状況と支援内容

(1) 登録者の状況

① 登録者全体の状況（全 423 名の内訳）

手帳別人数		年代別人数		状況別人数	
手帳種別	人数	年代別	人数	状況	人数
身体障害	26	18～20 歳	20	在職	283
知的障害	151	21～29 歳	86	求職(在宅)	33
精神障害	232	30～39 歳	99	求職(施設)	64
なし	14	40～49 歳	107	その他	43
計	423	50～59 歳	82	計	423
		60 歳以上	29		
		計	423		

- 精神障害者福祉手帳所持者が登録者の 55%を占める。
- 40 歳以上の登録者が半数以上で、登録者の約 1/4 は 50 歳以上である。
- 登録者の 2/3 が在職者である。求職中の方は就労移行支援事業所等施設を利用している人が在宅の人のほぼ倍である。

② 新規登録者の状況

- 新規登録者数は 44 名で前年度より 8 名増えた。手帳種別では精神障害者福祉手帳が 20 名で最多。同傾向が続いている。
- 状況別では求職中の方が多く、ここ数年一定数あった就労移行支援事業所からの定着支援引継ぎが減った。

(2) 新規就職者の状況

- 新規就職者数は 41 名で前年度比約 1.5 倍であった。障害者雇用率上昇等を見据え、採用活動を積極的に行った企業が多かったことによる。
- 手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が 8 割を占める。

(3) 離職者の状況

- 離職件数は 25 件。前年度より大幅に増えた。
- 離職者のうち 18 名は精神保健福祉手帳をお持ちの方。職場環境を含めたジョブマッチングを精神障害のある方自らが見立てていくことの難しさがあると思われる。

(4) 支援の状況

① 支援全般について

合計(件)

<支援内容別件数>

職業相談（就労全般）	4,158
就職準備支援（適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等）	122
職場開拓件数（独自の職場開拓）	4
職場実習（通勤援助、職務分析等）	65
職場定着支援	454
離職支援（諸手続き、調整等）	17
通院同行	53
家庭訪問	9
合 計	4,882

- 職場定着支援と通院同行の件数は前年度より増えたが、それ以外の支援は前年度より少し減った。あいるでの面談や電話による支援が減る一方、企業訪問や通院同行の支援が増えている状況。

② 余暇支援

- 登録者の交流を目的とした茶話会は新型コロナウイルス感染防止対策を行った上で開催した。
- 令和 4 年度より始めた生活講座は、11 月と 3 月の 2 回実施。
11 月は SNS によるトラブル、特殊詐欺被害を 防止することをテーマに実施し、21 名の参加があり、3 月は SNS 利用のリテラシー向上をテーマに実施し、30 名の参加があった。前年度より参加者が大幅に増え、盛況な会となった。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市内就労移行支援事業所等との連携体制の強化

今年度は、以下内容で武蔵野市障害者就労支援ネットワーク連絡会を計 3 回開催した。

① 第 1 回

- 内容：障害者雇用促進法、総合支援法の改正に関する動向について共有。連絡会内容についての意見交換。法改正に向けた支援者の心構えについての講義。
- 日時：8 月 25 日（金）13:30～15:00／ZOOM によるオンライン開催

- 障害者就業・生活支援センターオープナー 施設長 荒木 浩 氏
- 参加者：40 名。

② 第 2 回

- 内容：障害者雇用促進法、総合支援法の改正に関する動向について発信と共有。医療連携をテーマとして意見 交換、医療機関との連携に関するツール等の情報共有。
- 日時：12 月 21 日（木）13:30～15:00／ZOOM によるオンライン開催
- 参加者：30 名。

③ 第 3 回

- 内容：障害者雇用促進法、総合支援法の改正に関する動向について発信と共有。特定短時間雇用に関する動向 について障害者福祉課及び市内関係機関からの発表。医療連携をテーマとしたグループワーク。
- 日時：3 月 13 日（水）13:30～15:00／ZOOM によるオンライン開催
- 参加者：33 名。

(2) 武蔵野市役所障害者庁舎内実習

- 第 1 期の庁舎内実習を令和 5 年 10 月 30 日（月）～11 月 10 日（金）の 2 週間、第 2 期を令和 6 年 2 月 5 日（月）～2 月 16 日（金）で実施した。
- 実習生の公募は例年通り、あいる及び市内就労移行支援事業所等に向けて行い、あいる職員が事前に実習内容の説明、配慮事項等の聞き取りを行った上で、障害者福祉課、人事課の担当者による選考を実施し、参加者を決定した。
- 前年度同様、第 1 期、第 2 期とも 1 名につき 1 週間の実習とし、定員は前年度より更に 1 名増やし、4 名の実習生受入枠を設定。第 1 期 4 名、第 2 期 3 名の参加があった。

(3) 武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹共催「障がい者の就労を考えるつどい」

障害者雇用の理解促進と啓発を目的に、年 1 回、武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹で合同開催。前年度は小規模集合開催とオンデマンド配信のハイブリッド形式で実施したが、今年度はハイブリッド形式を継承しながら、会場の参加人数枠を増やした。

- テーマ：「障害者雇用ははじめの一步 PART2～さあ始めよう！職場定着のための準備と仕組みづくり～」
- 内容：ハローワークによる行政報告。企業、就職を目指す障害当事者それぞれに向けた、職場定着に必要な取り組み等に関する基調講演。これから障害者雇用に取り組もうとする、または職場定着に困っている企業担当者に向けて、同じ企業の立場からメッセージ発信。法定雇用率の引き上げから、初めて障害者雇用に取り組む企業の増加が予想されることから、それらの企業を主のターゲットとしてとらえ、職場定着に関する基本的ノウハウを伝える機会とする。
- 日時：11 月 24 日（水）14:00～16:10 配信期間 12 月 11 日～令和 6 年 1 月 10 日
- 場所：三鷹産業プラザ 7 階会議室／配信は youtube で申込者への限定公開

- 講師：ハローワーク三鷹雇用指導官／中央障害者雇用情報センター障害者雇用支援ネットワークコーディネーター／障害者就業・生活支援センターオープナー施設長／株式会社島津製作所障害者雇用人事担当者
- 当日参加者：81名／動画再生回数（延べ）211回

(4) 武蔵野市障害者就労支援センター雇用座談会

- 目的：障害者の雇用管理、定着に関する課題、取り組みに関する意見交換や情報共有を通じて、参加者が障害者雇用における理解を深めるきっかけとすること。武蔵野・三鷹両市の就労支援センターが協力し、障害者採用を検討している企業の求人ニーズと、就労支援センター及び就労移行支援事業所等就労支援系福祉サービスにおける登録者・利用者の求職ニーズをマッチングさせるための取り組みを進めること。
- 内容：「障がい者の就労を考えるつどい」にご参加いただいた30社の企業担当者に呼びかけ、オンラインによる障害者雇用座談会を企画し、実施。
- 日時：令和5年3月7日（木）13:00～14:30／ZOOMによるオンライン開催
- 参加実績：3社

(5) 多摩地域障害者就労支援事業実施団体連絡会

法改正の動向に関する各センターの動向についての共有を目的とした「法改正を見据えた地域ネットワークの状況と課題」アンケートを企画し、9月に障害者就業・生活支援センターを含め、都内63団体を対象に実施。12月には回収率が100%となり、すべてのセンターだけでなく、東京都福祉局、東京都産業労働局担当者とも共有をすることができた。

4 職員研修

(1) 事例検討会

帝京大学元永教授をスーパーバイザーに招き、事例検討会を全5回実施。就労面だけでなく、生活面、家族関係、貧困の問題など、複合的な問題を抱えるケースが増加する中、職員間の意見交換とスーパーバイザーからの具体的な助言を元に学びを深めた。

(2) 外部研修

44件参加。

9 武蔵野福祉作業所

1 事業運営

令和5年4月より就労移行支援事業を廃止し、生活介護と就労継続支援B型の2事業での運営を開始した。新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、段階的に感染症対策の見直しを行った。利用者の推移としては、4月時点で利用者76名が在籍、その後、6名が退所し、年度末時点では70名の在籍となった。平均年齢は39.2歳となっている。

利用者の加齢や機能低下、家庭の状況変化等を主な要因として、家庭生活や自力通所が困難になった利用者の退所が相次いだ。ご利用者の心身の健康や体力の維持・向上を目的に、午後の時間にストレッチタイムを設け、継続的に体を動かす機会を提供した。加えて、講師を招いての運動プログラム「のびのびストレッチ」を実施した。「健康に働き続けること」が事業所の大きなテーマになっている。

2 利用者の状況と活動内容

(1) 年間実績一覧

多機能型・定員	80名	見学者数(利用に向けての見学)	3名
利用者延数(年間)	15,620名	実習生(一般・学生等)延人数	23名
サービス提供日数(年間)	243日	事前の体験利用者数	21名
利用者数 1日平均	64.2名		

(2) 利用者数

令和6年3月31日現在(単位:人)

事業名(定員)	前年度末	入所	事業間異動 での増減	退所	今年度末
就労継続B型(70)	68	0	0	5	63
生活介護(10)	8	0	0	1	7
計(80)	76	0	0	6	70

(3) 年齢別利用者数(平均年齢39.2歳)

令和6年3月31日現在(単位:人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳 以上	合計
男性	0	13	15	10	5	1	3	47
女性	0	7	6	5	5	0	0	23
合計	0	20	21	15	10	1	3	70

(4) 障害者自立支援法による障害支援区分

令和6年3月31日現在(単位:人)

未確定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
22	0	7	22	16	3	0	70

(5) 障害・度数別利用者数

令和6年3月31日現在(単位:人)

		愛の手帳					精神手帳			合計
		1度	2度	3度	4度	なし	1級	2級	3級	
身体障害手帳	1級	0	2	0	1	1	0	0	1	5
	2級	0	1	1	0	1	0	0	0	3
	3級	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	4級以下	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	なし	0	25	29	4	0	0	1	0	59
	合計	0	28	32	5	3	0	1	1	70

(6) 活動時間

基本的な活動時間は9時～16時(一部16時15分)を基準とし、時間構成は4コマで、午前と午後の15分休憩と昼休み60分を設定した。

(7) グループワークプログラム

少人数グループプログラム「WG夢の扉(健康体操)」 「WGつながる(地域清掃・募金活動への参加等)」 「ワークショップ(表現活動)」を実施した。

(8) 作業活動と工賃

就労収入は、前年度比で微増となった。物価高騰の影響が大きい食品事業では、原価率が上がり、諸経費も増加しているため、やさい食堂七福では4月に価格改定を行った。受注事業ではダイレクトメール作業・菓子詰め作業などが減少傾向となった一方で、地域企業との新規の取引を開始し、法人内の他事業所と協力して大口受注を行った。工賃支給実績(多機能合計の月平均)は、令和4年度13,229円に対し13,498円となった。工賃評価を10月に実施した。

【売上実績表】

(単位:千円)

	食品部門			受注部門	合計
	給食	レストラン	配食・イベント		
令和4年度	14,887	9,736	5,842	12,320	42,785
令和5年度	14,357	10,041	6,095	12,384	42,878

(9) 年間行事

一泊旅行、クラブ活動は、感染症対策として中止とした。

【バスハイク】

○行 先：スモールワールド東京・お台場海浜公園

○日 程：5月12日（金）、26日（金）、6月2日（金）、9日（金） 全4回

○参加人数：利用者 68名、職員 24名、計92名

【親睦会】

○日 程：納涼会 8月22日（火）、23日（水） *2グループに分かれて実施

忘年会 12月6日（水）、11日（月） *2グループに分かれて実施

新年会 1月4日（木）

○内 容

・納涼会・忘年会：ゲーム・イラスト制作、お土産付

・新年会：前半は食堂で全体会、後半は各グループに分かれて書初めと昼食

(10) 自治会

4月に役員選挙を実施し、新役員6名が中心となる本人活動への支援を行った。感染症対策で中止していた全体会を実施した。

○4月26日（水）・・・役員選挙

○11月6日（月）・・・全体会開催、ハロウィンをテーマに3グループに分かれてビンゴ大会・イントロクイズなどを実施。

(11) 研修会（利用者対象）

○9月4日（月）、8日（金）・・・感染症研修「感染症にかからないためには？」

○1月16日（火）、17日（水）・・・防災研修「大きな地震が来たらどうする？」

(12) のびのびストレッチ

運動機会の提供を目的に、講師を招いて希望者を対象に運動プログラムを実施した（全3回）。

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 市立大野田小学校への学習協力

10月2日（月）4年生の「総合的な学習の時間」での授業協力

(2) 成蹊大学理工学部システムデザイン科との福学協働の取り組み

「プロジェクト実習」への協力（授業での講義・研究へのフィードバック等）

(3) やさい食堂七福と武蔵野市健康づくり事業団との連携

レストランメニューに関する管理栄養士によるコメント掲載

健康づくり事業団主催の脂質異常症をテーマにしたセミナー（12月）への弁当提供

(4) 武蔵野市主催のCO+LAB MUSASHINO（コラボむさしの）への参加

農家見学会・地域の飲食店との交流会（7月・10月）

(5) 中央連合会（中央商店会）との連携

むちゅースタンプラリー（11月～12月）への参加

4 職員研修

内部研修として、「福作が大切にする支援」研修（全2回）、医務研修、感染症研修、防災研修、虐待防止研修、就労支援研修、情報セキュリティ研修、ハラスメント研修を実施した。外部のオンライン研修等へ職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を報告し共有を図った。

5 苦情受付件数

5件

6 人権擁護虐待等受付件数

1件

7 その他

(1) 家族連絡会

家族連絡会を5月19日、9月20日、3月22日の3回実施した。事業所から利用者家族に向けた情報伝達、作業所の建て替え計画の進捗状況等について報告を行った。

(2) 広報紙

利用者向け広報紙「むさしのだより」を毎月発行した。

(3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月5回、健康診断、歯科検診（武蔵野市在住・希望者のみ）を実施した。また、感染症対策、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

(4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理した給食を提供した。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月1回行った。また、嗜好調査として給食アンケートを実施した（2月）。

(5) 総合防災訓練

6月12日(月)に総合避難訓練を実施した。月1回、発災時にヘルメットを速やかにかぶる練習として「ヘルメット訓練」を実施した。

10 ワークステージりぷる

1 事業運営について

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、段階的にコロナ禍前の運営に戻している。ただし、基本的な感染対策として、マスクの着用や手指消毒の励行は継続し、また作業環境についても引き続きスクール形式（1つのテーブルに一人が作業し、対面を避けるため同一方向を向く）で作業提供をすることとした。

ご利用者は3名の退所があった（他事業所利用2名、企業就労1名）。それに対して新規の利用者は0名であった。加えてご利用者の高齢化やご家族の入院等による影響で利用率が一部落ち込んだ。そのため、稼働率は95%だったものの、利用実績としては前年度を下回る結果となった。

受注作業はダイレクトメールを中心に取引量が増えた。また新規の取引先も増えた。その結果、前年度比で13.4%の増収となった。作業量が増えたことに伴い、法人内他事業所との共同作業の連動性もこれまでより活発に図られることとなった。

また、これまで自粛していた外出活動を再開し、日帰り研修旅行を実施した。この他にも社会生活プログラムや新年会、忘年会などの行事も実施することができた。

2 利用者の状況と支援内容

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日	20	20	22	20	23	20	21	20	20	19	19	20	244
利用数	412	403	414	373	392	379	402	390	366	357	362	368	4,618
稼働率	103	101	94	93	85	95	96	98	92	94	95	92	95

(1) サービス利用契約の状況

利用開始0名、終了3名（他事業所利用2名、一般就労1名）

(2) サービス提供時間

新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、それまで短縮していたサービス提供時間を見直し、次のように改めて定めた。

9:00～16:30（11:00と15:00に15分の休憩、12:30より60分を昼食時間）

(3) 就労支援事業について

単位（千円）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
R3	573	371	605	694	431	725	820	561	612	786	402	657	7,237
R4	785	573	646	690	391	757	665	573	486	512	759	483	7,325
R5	746	799	781	623	614	668	843	741	473	753	702	563	8,306

ご利用者にはダイレクトメールの受注作業を中心に安定した作業を提供することができた。また、新規の取引業者も増え、提供する作業種も増やすことができた。（製函、組み立て作業等。）結果的に作業収益としては前年度比13.4%増となった。

(4) 個別支援計画

これまで新型コロナウイルス感染症の状況から実施を見送っていた家族面談を再開し、個別支援計画の年間まとめや令和6年度の個別支援計画に要望などを反映させることができた。また、ご本人に対する面談は継続的に実施し、必要に応じて個別支援計画書に反映させた。

(5) 関係機関との連携

ご利用者の高齢化（ご家族の高齢化）、障害の重度化がみられるケースについては、適宜行政や相談支援機関、医療機関等と連携し課題解決にあたった。具体的には単身生活ケースに対して行政機関や医療機関と連携した地域生活維持のための対応協議、ご家族の高齢化に伴うご利用者のグループホーム入所のサポートなどを行った。

- (6) 社会生活プログラム
引き続き多様な社会生活プログラムを実施した。熱中症防止講座（8月）、街頭募金体験（10月）、備蓄食料実食体験（10月）、昼食購入支援（1月）、地域清掃活動（2、3月）を実施した。
 - (7) 行事等
感染防止対策をしつつ、忘年会、新年会を実施した（いずれも活動室内で実施）。また、宿泊旅行は実施しなかったが、日帰り研修旅行として小グループで企業見学を実施した。ダイレクトメール作業の封入封緘した「その先」を視察する目的で、ヤマト運輸羽田クロノゲートを見学した。
 - (8) 保健衛生
定期健康診断、歯科検診（武蔵野市内在住者のみ）、医師による医療相談や看護師による日常健康管理を行った。
 - (9) サービス提供記録
サービス提供内容については、ご利用者本人が翌朝のミーティング前に、ご自身で申告し、職員と確認、押印する方式を継続した。
 - (10) 家族会
サービス提供時間の変更に伴い、臨時で家族会を開催し経緯と説明を行った。その際、ご家族向けに事業所の作業支援の状況についても画像等でご紹介した。
- 3 地域関連機関や団体との連携
武蔵野市地域自立支援協議会に委員を派遣し、活動に協力した。
- 4 職員研修
- (1) 事業所内研修
情報セキュリティ研修、虐待防止研修（読み合わせ、動画視聴）、BCP（事業継続計画）研修などを実施した。
 - (2) 法人就労支援領域合同研修（けやき、いんくる、武蔵野福祉作業所、りぶる）
知的障害者の中年期・高齢期の支援（講師：志賀利一氏 11/7(火)実施、1～3月録画配信）、外部見学（伊勢丹ソレイユ）
 - (3) 法人内他事業所交換研修
ワークセンター大地（1名3日間）
 - (4) 個別研修
東京都 障害者虐待防止・権利擁護研修（1名）、就労支援フォーラム（2名）、サービス管理責任者研修（1名）
- 5 苦情受付件数
0件
- 6 人権擁護虐待等受付件数
0件
- 7 その他
- (1) 給食提供
武蔵野福祉作業所で調理した給食をランチケースに盛り付け、毎日提供した。また、従来より外食やお弁当などの買い物を奨励していたため、メニューによってはお弁当を買いに外出するご利用者もいた。
 - (2) 防災対策
きたまちハウスと連携し、「北町ほっと館」全体の避難訓練を実施した。
 - (3) 実習生（一般・特別支援学校生徒）
今年度は7名の実習生を受け入れた。

11 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 通園部ウィズ

1 事業運営

当事業所は武蔵野市より委託を受けている指定管理施設で、令和2年度より『相談部ハビット』との機能を合わせて、児童発達支援センター（児童福祉法）として運営している。

児童の通所部門『通園部ウィズ』の対象児は3～5歳児で、1日の定員は20名である。

令和5年度は子どもの登録が年間で22名、平均利用数が15.2/日、稼働率が76.2%であった。事業所内での感染症流行はなかったが体調不良による欠席が多く、また、精神的な不調による長期欠席児がいたためにコロナ前に比べて稼働率が低かった。

2 利用児の状況と活動内容

(令和6年3月31日現在 単位：人)

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用人数	255	303	351	358	290	316	325	280	299	309	302	286	3674

(1) 通園を利用した子どもの概況 年間を通した状況

①年齢別利用児数

(令和6年3月31日 単位：人)

	3歳児 (年少)	4歳児 (年中)	5歳児 (年長)	6歳児 (就学猶予)	合 計
男児	4	8	3	1	16
女児	5	0	1	0	6
合計	9	8	4	1	22

②障害程度別利用児数

(令和6年3月31日現在 単位：人)

		愛 の 手 帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	等級不明	なし
身 障 手 帳	1 級	0	0	0	0	0	0
	2 級	1	0	0	0	0	1
	3 級	0	0	0	0	0	1
	4 級以下	0	0	0	0	0	1
	等級不明	0	0	0	0	0	0
	なし	0	0	1	6	0	3

(2) 行事等（通園関係）

行事名	月日	行 事 内 容
入園式	4/7	入園式・保護者会
保育園・幼稚園との交流	1/12	吉祥寺保育園
親子遠足	10/27	屋内・冒険の島ドコドコ（立川）へ

家族参観日	6/17	家族参観
	12/16	お楽しみ会
季節行事	7/7	あそぼうデー
	9/8	運動会
	2/22	ミニコンサート（保護者参加なし）
誕生会		該当月の誕生祝い（保護者参加なし）
プール		屋外プール（7月～8月）
卒園式・修了式	3/27	卒園式（就学5人、転園3人）
避難訓練	9/15	こども館全体訓練2回
	3/15	災害時伝言ダイヤル訓練2期間
保護者会		年に3回実施（7月、12月、3月）
保護者向け講座	1/15	「将来の生活に向けた幼児期の療育活動の意義」
個別面談		年に3回実施（6～8月、11～12月、2～3月）
入園説明会	1/30-2/1	事業説明・利用契約・インテーク等
パイプオルガン体験	2/1	在園児・保護者が参加

3 他機関との連携・協力等

- ・教育委員会：通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関：並行利用児の幼稚園訪問・電話連絡、市内児童発達支援事業所連絡会への参加
- ・子ども家庭支援センター：ケースについての連絡・協力
- ・特別支援学校：卒園児に係るカンファレンス、学校からの訪問受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・保育実習生受け入れ（3名）、ボランティア受け入れ（3名）
- ・武蔵野市子ども協会学童クラブ職員の派遣研修受け入れ（12名）
- ・きょうだい交流会への参加

4 職員研修

- （1）事業所研修／音楽療法まとめ
- （2）館内研修／ケースカンファレンス、情報セキュリティ研修、感染対策研修、不審者対応研修、権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化研修
- （3）外部研修／プール活動事故防止講習、児童発達管理責任者研修、児童発達管理責任者更新研修、市内保育園見学研修、小平特別支援学校学校公開、ハビット発達基礎コース

5 苦情受付件数 0件

6 人権擁護虐待等受付件数 0件

12 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 相談部ハビット

1 事業運営

みどりのこども館では主として療育相談事業を実施。

新規受付数は前年度より微減となったが、受理面接は 20 件増加した。利用者のニーズに迅速に対応するため、主訴が限定的な吃音・構音の相談に関しては、初回から言語聴覚士が対応し、乳児の運動発達に関する相談に関しては初回から理学療法士が対応する体制を新たに開始した。しかし 5 月と 6 月の初回予約数が開所以来の件数すなわち例年同月の 1.5 倍増となったため、新規受付から受理面接（初回面接）までの待機日数が 1 ヶ月を超える事態が 9 月まで続いた。8 月以降は 1 ヶ月の初回予約数が例年通り 20 件前後に落ち着いたため、待機日数は徐々に減少し 10 月以降は新規受付から 1 ヶ月以内に受理面接を案内できる状況になった。

継続相談は前年度比で 41 件増。相談は原則来所を案内しているが、メール等による相談が昨年度 72 件から 132 件とほぼ倍増し、土曜相談も同 172 件から 220 件と約 3 割増加しており、家庭状況に合わせた多様な相談形態が必要とされていることが窺われる。

2 事業内容（令和 6 年 3 月 31 日現在の実績数）

- ・対象 0～18 歳までの子どもとその保護者
- ・開所日 月～金 月 1 回土曜日に相談を実施
- ・受付時間 9：00～17：00
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整、法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成・モニタリング

(1) 療育相談事業

新規相談	354 件
受理面接（初回面接）	222 件
継続相談	2,777 件
医療相談	34 件（19 回実施）

(2) 親子通園事業 休止

グループ数	登録者数	実施回数	延参加者数
0	0	0	0

(3) 施設訪問事業

保育園・幼稚園	95 件
学校	89 件
その他	42 件

(4) 計画相談支援

計画作成	1 件
モニタリング作成	14 件
計画相談・モニタリングに関する相談	16 件

(5) 各種支援活動、研修等

① 家族支援

- ・保護者会…就学に向けた保護者会は学校種別・学級別で4回、児童発達支援事業利用に向けた保護者会を1回実施。保護者会終了後、交流会も開催
- ・きょうだい交流会…2回実施
- ・ペアレントメンターと話そう…6回開催。ペアレントメンター及び関係機関との打合せ、関係機関との意見交換会に1回ずつ参加

② 地域支援

- ・研修事業…ハビット地域支援講習会 発達基礎コース（全9回）／武蔵野のびのびプロジェクト講演会（公認心理士）、チャレンジルーム講義（作業療法士）
- ・ハビット×ぐるりん（年3回）…ハビットの専門職による利用者向けミニ講座と相談
- ・特別支援教育事業（随時）…特別な支援が必要な児が在籍する市内幼稚園からの武蔵野市補助金申請に対する園訪問及び意見書作成
- ・地域型保育事業に係る障害児加算意見書作成（随時）
- ・特定教育・保育等（幼稚園）に係る療育支援加算意見書作成（随時）

③ 関係機関連携

- ・発達健康診査（健康課事業）に社会福祉士・理学療法士を派遣（15回）
- ・健康課フォロークラスにコーディネーターとして2名派遣
- ・子ども家庭支援センター主催担当者会議（1回）
- ・子ども家庭支援センターとの実務者連絡会（隔月開催）

④ 研修等

- ・子ども家庭支援センターとの合同研修（2回）
- ・保健センター、教育支援センターとの3センター合同研修会（2回）

3 苦情受付件数 2件

4 人権擁護虐待等受付件数 0件

5 その他（課題）

子ども関連施設からの巡回相談依頼が5月以降に始まり、巡回日が夏休み前までの期間に集中する。また、東京都の私立幼稚園特別支援教育事業費補助金申請のための意見書作成業務も締切りが7月末から8月前半に集中する。初回予約、巡回相談申込、意見書作成申込とも件数の予測がたちにくく、また、受理面接後は大半が専門職による相談を利用するが、同じ専門職が巡回相談や意見書作成にも対応しており、現行体制ではこれ以上の待機日数調整は困難である。

13 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 相談部ハビットサテライト

1 事業運営

みどりのこども館相談部ハビットのサテライトオフィスとして主に計画相談を実施。一部、社会福祉士による療育相談も実施している。開設当初の目的の一つである市西部地域のハビット相談利便性向上について、サテライトでの来所相談を 101 件実施し、前年度より大幅に件数増加している（R4 年度 31 件）。

令和 3 年 8 月以降、新規計画相談対象者を限定しているため、卒園や卒業、転出などによる福祉サービス利用終了に伴う計画相談利用終了者が、新規利用者を上回っており、計画相談利用実人数は 485 名から 433 名に減少。その一方、継続相談の件数は前年度より 300 件以上増加しており、1 ケース当たりの相談回数が増え丁寧なフォロー体制となっている。

2 事業内容（令和 6 年 3 月 31 日現在の実績数）

- ・対象 0～18 歳までの子どもとその保護者
- ・開所日 月～金 月 1 回土曜日に相談を実施
- ・受付時間 9：00～17：00
- ・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整、法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成・モニタリング

(1) 療育相談事業

新規相談	5 件
継続相談	886 件

(2) 計画相談支援

計画作成	24 件
モニタリング作成	808 件
計画相談・モニタリングに関する相談	971 件

(3) 各種支援活動、研修等

①関係機関連携

- ・健康課フォロークラスにコーディネーターとして 5 名派遣
- ・子ども家庭支援センター主催担当者会議（4 回）
- ・田無特別支援学校主催の担当者会議（1 回）

②研修等

- ・子ども家庭支援センターとの合同研修（2 回）
- ・保健センター、教育支援センターとの 3 センター合同研修会（2 回）

3 苦情受付状況 1 件

4 人権擁護虐待等受付件数 0 件

14 武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館 おもちゃのぐるりん

1 事業運営

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて児童発達支援センター相談部ハビットと連携し、療育相談につなげている。

令和5年度は、4月から10時から16時までの通し開館とした。前年度に引き続き、感染症予防とおもちゃ保護のために入館時の手洗いをお願いした。

コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを20点程度持参する出張ぐるりんについてはコミセン親子ひろばや子育て支援施設のイベントとして月1回の頻度で実施した。

「手作りファースト・トイ」(妊娠6ヵ月の方から生後5ヵ月までの子どもと保護者対象)は、対面(5組限定でひろば貸切)にて年5回開催した。

(なお、この事業の運営は、武蔵野市子ども協会に委託している)

2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由に楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者
- ・利用料 無料
- ・開館日 火～土の週5日間(日・月・祝日は休み)
- ・開館時間 10:00～16:00
ランチタイムは引き続き休止となった。
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員2名 嘱託職員1名 アルバイト4名
*支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者、アルバイトスタッフも全員有資格者
- ・おもちゃの在庫数 約300種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時70～80個を用意している。
- ・その他の実施事業
手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院(おもちゃ修理)・畑での体験・外部講師によるワークショップ・ボランティアによるおはなしひろば及び催し・ハビット×ぐるりん・みどりのこども館看護師と話そう！

3 活動実績

- ・開館日数 248 日(前年度 241 日)
- ・利用児総数 5149 人(前年度 3217 人)
- ・平均利用児童数 1日: 28.0 人(前年度 13.3 人)
- ・ひろば相談(随時対応) 245 件

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	その他	合計
利用児数	927	1311	845	690	543	497	223	113	5149

*その他は小学生の兄弟姉妹等

4 年間実施行事

(1)参加人数等

(令和6年3月31日現在 単位:人)

手作りおもちゃの会							
4月 第2週	46人	7月 第2週	63人	10月 第2週	81人	1月 第3週	81人
5月 第2週	58人	8月 第2週	68人	11月 第2週	75人	2月 第2週	47人
6月 第2週	24人	9月 第2週	69人	12月 第2週	82人	3月 第2週	68人

ハビット×ぐるりん(ハビット職員によるミニ講座と座談会)定員8組(ひろば貸切にて実施)		
5月30日	これってもしかして、イヤイヤ・・・？！(公認心理師)	5人
9月21日	“やってみたい”ができるに変わるまで おはしハサミのコツ(作業療法士)	8人
1月26日	知っておきたい！乳幼児の体を使った遊び(理学療法士)	9人

みどりのこども館看護師と話そう(子育てに関するミニ講座と座談会)		
6月16日	看護師と話そう♪季節のライフ&ケア	5人
11月30日	看護師と話そう♪季節のライフ&ケア	6人

その他のイベント					
4月	手作りファースト・トイとお話会 母の日プレゼントキット配布	4人 58人	10月	ゲームの日	7人
5月	お庭であそぼう シャボン玉	14人	11月	お庭であそぼう 運動会ごっこ 聞いて話してスッキリ！タイム	16人 1人
6月	父の日プレゼントキット配布 WS トムテさんのおもちゃひろば で遊ぼう！ お庭であそぼう 水あそび	60人 16人 11人	12月	手作りファースト・トイとお話会 お庭であそぼう カップーの日 サークルリングウェーブを作ろう	4人 14人 21人
7月	手作りファースト・トイとお話会	5人	1月	ゲームの日 てがたあしがたペタペタ動物園WS	9人 20人
8月	なし	人	2月	つみきであそぼう お庭であそぼう カップーの日	8人 12人
9月	お庭であそぼう 色水 WS 出張すごろくやわくわく！ボード ゲームで遊ぼう 手作りファースト・トイとお話会	7人 11人 1人	3月	祝・卒園★アイロンビーズで飾りを作ろう	15人

- ・おもちゃ病院 (原則第4土曜日に開催) 実施回数:12回修理おもちゃ数:227件
おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター6名が、壊れたおもちゃを無償で修理(材料費のみ個人負担)。個人・施設からの修理依頼を受付。
- ・手作りファースト・トイとお話会 (年に4回)大野田福祉の会の方にボランティアとして参加してもらい、赤ちゃん向けの手作りおもちゃ作り・お話し等を行う。
- ・おもちゃの貸出し(毎週水・土曜日) 貸出し数:2,217件 登録者 369人
子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ約150点の中から1点、1週間の貸出し
- ・出張ぐるりん(基本月1回開催) 実施回数:18回 参加人数:228人
- ・みどりのこども館あそぼうデー 午前の部、午後の部に分け実施

(2) 広報活動

- ・ぐるりんだよりの発行 偶数月に1,100部発行
保育園等市内施設に設置:配布箇所74施設
- ・ホームページやX(旧ツイッター)による情報提供 ホームページ随時更新
令和5年度 ツイート数:120 ツイート フォロワー:621人(令和6年3月末現在)

15 居住支援ユニットリエゾン

1 事業運営

入居されているご利用者の主体性を大切にし、個々に合った生活を実現できるよう検討を重ねたが、一部のご利用者は気分の波が激しく長期にわたり自宅療養となってしまう方もいた。また、ご家族の高齢化に合わせた宿泊数については引き続き検討が必要。

チャレンジ自立体験事業については、新型コロナウイルス感染拡大により縮小としていたが本格再開した。6月の事業開始から大きなトラブルは見られなかった。また、2か月間利用の方を対象としアンケートを実施した。チャレンジ期間が終了し、ご本人、ご家族の変化などお伺いし、サービス提供の振り返りと質の向上に努めた。

職員体制については、様々なアクシデントにも安定したサービスの提供が継続できるよう、ユニットを跨いで職員を派遣し実対応の実績を重ねた。

2 利用者の状況と支援内容

(1) 利用者の入居状況(令和6年3月31日現在 入居者合計52名)

- ・せきまえハウス 男性6名
- ・きたまちハウス① 男性8名
- ・きたまちハウス② 男性6名
- ・くすの木① 男性4名
- ・くすの木② 男性9名
- ・かしの木(南館) 女性10名
- ・かしの木(北館) 女性9名

(2) 利用者数

	前年度	入所	退所	合計
男性	33	0	0	33
女性	19	0	0	19
合計	52	0	0	52

(3) 年齢別利用者数 () 昨年者数

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	5	5 (8)	12	9 (7)	1 (2)	1 (0)	33
女性	0	2 (5)	12 (9)	3	2	0	19
合計	5	7 (13)	24 (21)	13 (10)	3 (4)	1 (0)	52

(4) 障害程度別利用者数

愛の手帳	1 度	2 度	3 度	4 度	愛の手帳 なし	計
	0	2 4	1 8	7	3	5 2

身障手帳	1 級	2 級	3 級	4 級以下	身障手帳 無	計
	5	3	0	2	4 2	5 2

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
0	8	9 (1 0)	19 (1 8)	11 (1 2)	5	5 2

(6) 利用日

年末年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人単独で通勤・通所している方 29 名、通所施設の送迎を受けている方 23 名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 15,295 人(利用サービス日数 366 日)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
1,260	1,207	1,333	1,298	1,297	1,187
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1,329	1,332	1,332	1,227	1,210	1,283

(9) 活動全般

- ・ 年末年始も含め年間を通じた入居者の利用があった。
- ・ 入居者が新型コロナウイルスに感染したことにより、支援体制の維持が困難となり、利用自粛や一部閉鎖したユニットがあった。
- ・ かしの木南館でボランティアセンター武蔵野と、関前福祉の会からの紹介で下記内容の余暇活動を実施した。

①2023 年 4 月 30 日、越中おわら節（ボランティアセンター武蔵野紹介）

②2023 年 6 月 11 日、ペープサート（ボランティアセンター武蔵野紹介）

③2023 年 8 月 20 日、歌唱（ボランティアセンター武蔵野紹介）

④2023 年 11 月 12 日、関前コミセンまつり（関前福祉の会紹介）

⑤2024年2月11日、サックス演奏（ボランティアセンター武蔵野紹介）

※2023年8月19日、関前南小の花火大会に出かけた。（ボラセン関係なく、南館独自で企画・対応したもの）

(10) 保健・食事

①健康管理：健康診断（1回）、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種（10月）

②食 事：七福の配食サービス、外部の配食サービスを併用して利用した。また、引き続き、入居者の好みに応じた「お楽しみメニューの日」を設定やディナーの設定も行った。

③通 院：必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(11) 家族関係

事前アンケートで希望をとり、年度末面談を実施した。今年度はオンラインは活用せず、希望されたご家族は全員対面で実施した。

(12) 見学者

受け入れを緩和したが、実績は数件で、主にチャレンジ自立生活体験事業に関わる見学がほとんどを占めていた。

(13) 制度利用の支援

訪問看護（介護保険2人、その他2人）、訪問リハビリ（介護保険1人）、介護機器（介護保険：2人）、訪問診療（介護保険2人、その他1人）訪問歯科（介護保険2人、その他1人）などの制度利用のために、引き続き各事業者と連携した。

(14) 消防機器設備の定期点検の実施

各グループホームの自動火災報知設備と自動通報設備の定期点検（年2回）を行った。

(15) 防災訓練の実施

各グループホームにおいて、避難、消防設備の使用の確認、機材の使用確認など、複数回実施した。また、きたまちハウスにおいては、建物がワークステ이지りぷると同一のため、共同して、北町ほっと館として1回避難訓練を実施した。

(16) チャレンジ自立生活事業

事業運営について、きたまちハウスの短期入所事業で活用する居室とグループホームかしの木北館の居室を活用し、「チャレンジ自立生活事業」を実施した。コロナ禍の状況から、約2年間と昨年度の1月から3月までの3か月間男女各1名ずつ計6名での実施を経て、今年度は6月から3月まで男女各8名、計16名にチャレンジ自立体験を経験していただいた。

3 地域関連機関や団体との連携

武蔵野市自立支援協議会地域移行部会、桜野地域社協、大野田地域防災会、関前地域社協、へは運営委員の派遣をした。こだまネットへは理事として派遣

4 職員研修

(1) 法人研修

入職3年目研修（1名）に当該職員を派遣した。

(2) 外部研修

東京都が主催する、「強度行動障害支援者養成研修」に2名、「グループホーム基礎研修」に2名、サービス管理責任者基礎研修に1名、虐待防止・権利擁護研修に1名、相談支援従事者初任者研修に1名をそれぞれ参加させた。

(3) 内部研修

10月に実施。①『利用者の高齢化について』②『日々の支援、業務における不安について』の2つのテーマで全体研修を実施した。

2日間にわたり研修を実施した。毎回2グループに分かれ、所属外のユニットで起きている現状を報告、共有、その中から共感できる事や、一緒に検討できることを体感し、日々の業務への不安解消につなげ、また、所属感を高めることにつながったと感じる。

(4) 人権擁護・虐待防止研修

令和5年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修に参加した職員のテキストと、後に視聴可能となった動画を使用し、ユニットごとで研修を実施した。

5 苦情受付件数

0件

6 人権擁護虐待等受付件数

0件

16 武蔵野市障害者福祉センター

1 事業運営

在宅心身障害者の通所訓練施設として昭和 55 年 12 月 3 日開設。障害のある方々が地域との相互理解と連帯を深めながら、各種事業を通じて社会参加と自立を目指し障害福祉の増進を図ることを目的として運営してきた。平成 29 年度からは指定管理者制度を導入し、社会福祉法人武蔵野が施設管理とともに生活リハビリサポートすばる（自立訓練・生活介護）や障害者相談支援事業所ほくと等の事業所を一体的に運営している。

今年度は 5 月から新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことから、マスクの着用、手指消毒などの対策を講じながら部屋貸し事業は定員、時間帯ともに通常に行った。各部屋での飲食は引き続き禁止とした。また調理室の貸出しは空調機器や給湯機器の故障により中止とした。講習会に関してはパーカッション、ボルダリングなどこれまで中止としていた講習会も再開し、新たに俳句講習会など企画、実施した。センター講演会については商工会館の市民会議室にて行った。

生活リハビリサポートすばるの自立訓練（機能訓練）は新規利用者の増加や利用頻度の制限解除などで利用者数が増えたため安定した経営を行う事が出来た。

2 部門別報告（令和 6 年 3 月 31 日現在の実績数）

（1）管理部門

①部屋貸し（地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数（件）	38	28	34	36	23	34	38	30	32	30	30	38	391
延人数（人）	235	194	197	262	118	250	332	177	262	249	262	330	2,868

（感染症対策のため調理実習室の貸出は行わなかった）

②通所移送事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数（人）	326	432	539	467	425	530	529	520	514	497	511	524	5,814

③障害者講習会（エアロビ、美術、太極拳、将棋、体操、椅子に座ってヨガ他）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数（人）	0	49	61	62	0	74	59	55	63	40	52	26	541

④医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数（件）	28	25	29	28	31	25	26	27	29	23	25	27	323

⑤行事・地域活動等

・センター講演会

令和5年11月25日(土) 会場名 商工会館 市民会議室

脳の障害：高次脳機能障害 ～見えない違和感が「障害」とわかるまで 参加者 50 名

・障害者福祉センター運営協議会

第1回 令和5年8月3日 令和4年度障害者福祉センター実績報告について

令和5年度武蔵野市障害者福祉センター事業実施計画と
実施状況について

第2回 令和6年3月27日 令和6年度事業計画について

・安全対策連絡会議 2回(9月21日、2月22日)

・避難訓練 2回(9月29日、2月29日)

・千川地区社協 千川サロン休止中、運営再開に向けて協議

・東部福祉の会「東部フェスティバル」(10月22日)に参加

・千川地域防災会の役員会(令和6年1月27日)に参加

・はちコミまつり(10月14日、15日)に作品展示で参加

・失語症会話パートナー養成講座(令和5年10月7日基礎知識編、10月18日、11月1日・
15日・29日、1月17日・31日の計8回)に講師として参加

⑥職員研修

・情報セキュリティ研修(内部研修)

・令和5年度虐待防止権利擁護研修(内部伝達研修)

・ハラスメント研修

・心のバリアフリー研修会

・その他(施設長研修、中堅層研修など)

(2) 相談部門

①専門相談

ア) リハビリ相談(住宅改修、補装具等 電話、来所、訪問など) (延人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	116	95	96	95	103	78	77	51	56	62	79	112	1,020

・心のバリアフリー啓発事業の講師派遣 7団体、延べ522名

・同行援護従事者研修の講師

・武蔵野市バリアフリー工事への助言 3件

イ) ゆいっと相談件数(高次脳機能障害) (延人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談 (来所・電話・訪問)	134	99	117	88	88	142	128	125	114	123	135	153	1,465
うちサロン	9	9	14	3	8	10	8	10	5	12	13	19	120

・高次脳機能障害関係機関連絡会 年2回 事務局機能としての活動

- ・高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年4回開催
- ・北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業：支援者会議3回、研修会3回
- ・市区町村高次脳機能障害相談支援員連絡会 年3回
- ・桜堤地域別ケース検討会（西部第1）にてケアマネジャー対象に失語症の勉強会2回（1/16、2/20 参加者ともに16名）
- ・心のバリアフリー啓発事業講師（7/15「高次脳機能障害」武蔵野中央図書館職員対象）

ウ）視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談（来所・電話・訪問）	69	79	82	71	39	89	52	59	61	81	50	53	785
うち点字教室	10	10	9	13	0	12	9	12	13	9	14	12	123
うち地域生活学習会	0	0	0	0	0	7	0	0	0	3	0	0	10
バリアフリー相談	1	2	1	4	1	3	2	0	0	2	3	2	21

- ・同行援護従事者養成研修会 講師
- ・同行援護従事者フォローアップ研修 講師
- ・心のバリアフリー啓発事業 講師 4団体、延べ436名
- ・武蔵野市バリアフリー工事、印刷物等への助言 17件
- ・地区別ケース検討会 講師

②特定計画相談

・実績

障害別	契約者数 (実数)	計画作成数 (延べ)	モニタリング実施 数(延べ)
視覚	43	42	118
高次脳 他	20	20	46
身体	19	21	60

(3) 通所部門

①自立（機能）訓練（通所および訪問によるリハビリテーションサービス）

午後1時～4時

毎週月～金 1日の定員 10名

・実績

(延人数)

平均 4.9人/日

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
自立 訓練	通所	70	70	96	73	81	99	112	131	109	93	111	117	1,162
	訪問	1	2	3	4	0	1	1	7	2	1	2	1	25
市単（通所）		0	8	15	35	38	21	22	8	8	8	9	7	179
計		71	80	114	112	119	121	135	146	119	102	122	125	1,366

・利用者の状況

(性別／年齢)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	1	0	5	0	0	6
女	0	0	0	2	0	1	1	4
計	0	0	1	2	5	1	1	10

(障害手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	7	1	0	0	0	1	1

②生活介護（通所デイサービス）午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員10名

・実績

平均 5.1 人／日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	96	93	109	89	85	112	121	101	112	99	107	111	1,235
市単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	96	93	109	89	85	112	121	101	112	99	107	111	1,235

・利用者の状況（性別／年齢）

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	2	1	2	1	0	6
女	0	0	1	2	1	0	0	4
計	0	0	3	3	3	1	0	10

(障害者手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複 (視覚・精神)	重複 (肢体・精神)	重複 (肢体・知的)	精神	なし
人数	5	1	0	2	1	1	0

3 苦情受付件数

5 件

4 人権擁護虐待等受付件数

0 件

17 わくらす武蔵野

1 事業運営

障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野は、令和5年度末で開設5年が経過した。実施事業は、障害者総合支援法上の施設入所支援、生活介護（日中活動）、短期入所、行動援護、相談支援、武蔵野市単独事業のショートステイ事業（なごみの家）、貸館事業（オリーブホール）である。また、新たに武蔵野市の委託を受けて地域生活支援拠点等事業を開始した。

施設入所支援について、退所者0名、入所者1名（令和6年3月1日付）であった。入所者用居室38床のところ現在38名が入所となり、全居室が満室となった。この他、体験入所事業を再開し、対象ユニットに該当した1名が利用された。

生活介護について、退所者0名、入所者1名であった。（現在利用者数は42名/定員50名）となっている。

短期入所・なごみの家事業については、引き続き感染対策を講じつつ、感染症法の2類感染症から5類感染症へ移行したのに伴い、3階の短期入所スペースで受け入れつつ、ユニット内の生活スペースでも受け入れを再開した。

行動援護について、7月から毎月1回のペースで定期的な利用が継続している。貸館事業（オリーブホール）について、市の公共施設の貸し出しルールを参考に事業を継続した。貸館の実績は3団体のべ10件だった。

新型コロナウイルス感染症については、9月末から10月上旬に陽性者が複数発生した。その都度保健所の訪問指導などを通じて感染対策の見直しと強化を図った。

2 利用者の推移

（単位：人 令和6年3月31日現在）

（1）施設入所支援

年度	令和3	令和4	令和5
利用者数	36	37	38

（2）体験入所

年度	令和3	令和4	令和5
利用者数	0	0	1

（3）生活介護（通所利用者）

年度	令和3	令和4	令和5
利用者数	4	4	5

(4) 行動援護

年度	令和 3	令和 4	令和 5
利用者数	1	1	1

(5) 計画相談

年度	令和 3	令和 4	令和 5
利用者数	3 9	4 0	1 7

※モニタリング 83 件

(6) 短期入所

年度	令和 3	令和 4	令和 5
利用者数（市内）	1 6	1 7	97

月別利用件数（件数は 1 日単位）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
短期入所	4	15	8	4	0	11	7	5	6	8	9	20	97

(7) なごみの家

年度	令和 3	令和 4	令和 5
利用者数	5 7	5 8	117

月別利用件数（件数は 1 日単位）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
なごみの家	8	8	10	15	5	2	4	12	7	12	16	18	117

3 地域関連機関や団体との連携（貸館事業：オリーブホール）

(1) 4chu-café の会（自習室として）6/24、11/12、12/20、1/7、2/21、3/20

年間 6 回開催

(2) 北町キャラバン（吉祥寺ナーシングホーム在宅介護・地域包括支援センター）9/6、9/13、

9/20 年間 3 回開催

(3) 近隣の会（大野田地区有志）7/10

年間 1 回開催

月別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	1	1	0	3	0	1	1	1	1	1	10

4 施設見学対応

- (1) 都立大学都市環境学部建築学科 竹宮健司教授 他4名、8/21
- (2) 北区障害者基幹相談支援センター、NPO 法人ピアネット北、10名、9/6
- (3) ふくしねっと工房 友野剛行様、12/1
- (4) 清瀬わかば会 家族会、6名、1/16
- (5) 黄金ネットワーク、3名、2/23

5 地域生活支援拠点等事業

(1) 関係事業者向け説明会

7月31日(月)に武蔵野市役所にて開催。武蔵野市の拠点等事業に多くの事業所が参加協力していただくために、拠点等事業の内容や事業所登録の事務手続き、拠点登録事業所として得られる加算等資料をもとに説明と質疑応答を行った。

(実績) 参加23事業所、29名参加 ※3/31現在、11事業所が市に登録済み

(2) 事務会議

地域生活支援拠点等会議に向けた企画準備、マニュアル等作成等、運営事務全般を担う役割を担い、毎月開催した。

(実績) 4/12、5/24、6/14、7/5、8/9、9/7、10/12、11/9、12/14、1/11、2/7、3/6
計12回

(3) 拠点会議

武蔵野市の地域生活支援拠点等事業の全般の運営や相談機能の「登録判定会議」等を担う会議として、今年度の途中より開催した。

(実績) 10/19、11/16、12/21、1/18、2/15、3/21 計6回

(4) 利用者の登録

地域生活支援拠点等事業における相談機能を活用し、緊急時の支援が見込めない世帯を事前に把握し登録した上で、緊急時の連絡体制を確保し、介護者の急病、死亡等により生じた緊急事態に必要なサービスの調整や相談などの支援を行った。

今年度は知的障害の分野から6名の候補者が挙げられ、拠点会議にて対象者として認められた5名の方に登録の同意をいただいた。

5 職員研修

- ・東京都強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 7名
- ・東京都強度行動障害支援者養成研修（実践研修） 4名
- ・施設長・係長研修 4名
- ・中堅層リーダー研修 4名

・ 3 年目研修	2 名
・ サービス管理責任者更新研修	2 名
・ 情報セキュリティ研修	全職員
・ 喀痰吸引研修	2 名
・ 相談支援従事者研修	2 名
・ ハラスメント防止研修	全職員
・ 障害者虐待防止・権利擁護研修	全職員
・ 東社協虐待防止研修「障害者虐待防止法の理解と身体拘束適正化について」	全職員
・ OT/心理師研修「利用者を尊重すること ～人権・記録の書き方～」	全職員
・ 若手交流会(わかばの会)	1 名
6 苦情受付件数	
14 件	
7 人権擁護虐待等受付件数	
0 件	
8 その他	
・ 武蔵野市地域自立支援協議会相談支援ネットワーク委員派遣	
・ 東京都地域移行促進コーディネート事業ブロック会議委員派遣	
・ 吉祥寺北町 5 丁目町会研修会参加	

18 武蔵野市桜堤ケアハウス

1 事業運営

武蔵野市桜堤ケアハウスの1年間の利用者動向は退所者が2人、新規入居者は3人となった。また60代入居者が2名、70代入居者2名、80代以上の入居者が19名（最高齢102歳）と高齢化が進んできている。それに伴い、加齢による理解判断力及び記憶力（認知機能）の低下が進んでいる方、軽度知的障害や軽度の認知症状のある方、気分障害（躁鬱等）を訴える方が混在しており、生活相談員が集団生活上の悩み事や入居者同士の人間関係、体調などに関する相談にこまめに応対し、入居者の精神状態安定が図れるよう努めている。自立的に過ごされるお元気な方もおられるが、一方で長引くコロナ禍の影響でフレイル状態になる方が増え、身体面や精神面に関する不安やストレスを強く訴える方が増えた。特に長期間に渡る黙食やマスク生活による口腔機能の低下、人と接する機会が極端に減り認知機能の低下を有する入居者が増え、入居者同士の良好な人間関係を保てない方も増えてきており、身の回りの世話や生活相談などの支援力が求められている。このような状況下において、その人らしさを大切に、良好な関係を築きながらケアハウス及び地域での生活を継続できるよう、個々の心身の状態に合わせた相談支援を行っている。

2 利用者の状況

(1) サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定 員	29名(個室25室・2人部屋2室)	8,815名	83.0%

(2) ケアハウス利用者の状況について

① 入退所状況

(人)

	令和5年度当初	退 所	入 所	令和5年度末
男性	9	1	2	10
女性	14	1	1	14
合計	23	2	3	24

*退所者2名のうち1名は他施設への転居、1名は入院中の逝去による。

② 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

区 分	男 性	女 性	全 体
平均年齢	82.00	88.00	86.17

<年齢構成>

(令和6年3月31日現在・24人)

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100-	合計
男性	0	1	1	2	1	2	3	0	0	10
女性	0	1	0	0	1	4	6	1	1	14
合計	0	2	1	2	2	6	9	1	1	24

③ 要介護認定状況 ※総合事業対象者は、令和5年度当初0名、令和5年度末0名

	要支援	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
令和5年度当初	0	1	6	5	1	0	1	1.88
令和5年度末	3	0	3	6	2	0	0	1.55

④ 外部サービス利用状況 *重複あり (令和6年3月31日現在・24人)

性別	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	訪問リハ
男性	4	2	1	1
女性	4	4	3	1
合計	8	6	4	2

3 その他の実績

(1) ボランティア

ボランティア活動延人数：204名（手作りの会・傾聴・活動補助・配食）

配食件数：延べ331件（おせち3食含）

(2) 多世代交流としてスペース提供(乳幼児・児童等と入居者との交流機会)

平成30年度から3階・和室を、月曜から金曜日の平日(祝祭日除く)の午後に、市内の小・中学生を対象に学習教室の場所として無償で貸し出している。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したのを機に、近隣小学校や合築する信陽舎寮生との交流を再開した。近隣小学校児童とは七夕の飾りつけや敬老会でのお祝いの品渡し、寮生とは合同での避難訓練、ラジオ体操や配茶、縁日での輪投げのお手伝い等のちょっとしたボランティアを通して交流を図った。

金魚や亀を飼っている正面玄関脇の池は、近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放し、定期的に交流を図っている。また入居者が作成した雑巾を近隣小学校に寄贈し間接的交流に努めた。

(3) 音楽アクティビティの導入

長期間に渡るマスク生活と黙食の影響で発語の機会が減少、また感染予防の観点から集団で歌う機会が少なくなり、声が出しにくいとの声が多く聞かれた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したのを機に、10月から試行的に音楽アクティビティを導入した。専門講師

の助言をもとに、唱歌や歌謡曲を歌いながら体を動かすことで気持ちが明るくリフレッシュできたという入居者からも好評を得て、次年度からは月2回の定期開催を予定している。

(4) 傾聴ボランティアの継続

長引くコロナ禍で人との関わりが限定され閉塞的な生活が続き、フレイル状態になる方が増えたことを受け、昨年度より傾聴ボランティアを開始した。感染予防の観点から不特定多数の方との交流は難しいが社会との繋がりを維持するために、現在は4～5名が毎週・隔週で活動を継続している。活動を通し発語の機会が増えたことや自身の成育歴を話される方、また、季節の良い時期にはケアハウス周辺を共に散歩するなど脚力維持やフレイル予防にも繋がっている。

(5) 桜堤スマイル弁当

前年度「地域社会に役立つ」取り組みとして、地域で開催される高齢者向けの講座や会合などで、持ち帰り弁当の販売を企画した。今年度は老人会や老人クラブからの依頼を受け、7件102食を配達、季節に応じた献立を提供しており好評を得ている。

4 食事提供、健康管理等

(1) 食事提供状況

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	24	粥・おかず普通（きざみ等）	0	（令和6年3月31日現在・24名）
----	----	---------------	---	-------------------

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。基本的に常食で提供するが体調不良時（コロナ関連等）は調理部門職員と相談、本人の意向を確認し一時的に粥食を提供した。

行事・伝承食（伝統的文化食）や海外のメニューも組み入れ、季節感のある食事の提供を行った。また「ご意見箱」の活用や食事アンケートの結果など栄養士が直接入居者から意見を聞きとりし、そのリクエストを随時献立に反映した。主食や主菜は入居者の好みや身体状況に応じて提供量を変え選択できるようにしている。入居者の高齢化により咀嚼嚥下力の低下が見られる方も増えており、食材の調理方法を見直し食べやすい工夫を行った。さらにコロナ禍でも楽しみの持てる食事になるよう、焼き鳥やトウモロコシなどの縁日メニュー、クリスマスの日にはクリスマスケーキを入居者がデコレーションするなど、楽しめるメニューの創意工夫を行った。

(2) 健康管理等の状況

入居者自身の病識の低さや服薬管理が難しい入居者へは、介護サービス（訪問看護）利用の提案や週1回開催している嘱託医による健康相談の利用を勧めた。今年度は全入居者と嘱託医との面談を実施、健康診断の結果をもとに日常生活での留意点などの助言を受け日々の支援に繋げた。

体調不良時や健康診断の際に、一人での通院が難しい入居者も増えており、本来は家族やヘルパー同行だが付き添えない場合は相談員が同行し病状説明等行っている。

また、安心・安全な日常生活を送って頂けるよう、コロナ禍でも心身機能及び日常生活動作の維持向上を目的に、さわやか健康クラブでは専門講師を招いて月1回の介護予防体操を実施。入居者のフレイル予防に努め、ケアハウスでの生活が維持できるよう日常生活に活かせる体操を取り入れた。

今年度も9月と3月に体力測定を実施、日々の生活の中でも歩行の機会やラジオ体操への参加、居室で出来る軽体操を周知し、体力・筋力維持を目標とした。年2回の計測で数値を大きく下回る入居者はおらず、日々の積み重ねが重要であることを各自実感していた。

5 相談支援等

入居者の高齢化、虚弱化、さらに理解判断力の低下により、集団生活上のルールやマナーなどが守れなくなっている方が増えており、入所者間でのトラブル、人間関係上の精神的な抱え込みも多くなっている。そのため、一人ひとりの状況に合わせた相談支援や関係機関との調整を図り、また家族（保証人）とも連絡を取り合いながら対応している。

一方で保証人の高齢化や保証人不在、家族が課題を抱えているケース、亡くなられた方や疎遠となられているケースも増えてきており、現状の経済面に関する支援や入院時の身上監護、次の生活の場に向けて、適切な関係機関と連携した支援の必要度が増してきている。この他に入居者全員に対して、入居者の日常生活における要望などを伺い、ケアハウスで「安心・安全な生活」が送れるよう個別支援計画書を作成している。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整等)	448 件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	956 件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請手続き、関係機関との連携)	74 件

6 各種事業実績

(1) 年間行事の実施状況

(人)

行 事 名	実 施 日	行 事 内 容	参加人数
入居者個別面談	5月上旬から6月下旬にかけ実施	入居者と職員の個別相談	24
お役立ち講座	5/17	熱中症対策として外部講師を招いて講座	10
新茶を楽しむ	5/18	昼食時の配茶時に新茶をふるまう	20
七夕行事	7/5	近隣小学生児童やパレット利用児と一緒に飾り付けを実施。	5 (入居者)
サマーコンサート	7/13	外部演奏者を招いてピアノとバイオリンのコンサート	22
夏の夕食会	7/13	季節感を楽しんでいただく食の提供 (握りずし、茶わん蒸し)	22
縁日	7/25	縁日風のメニュー	21

選択食	8/24. 10/13	事前にポスターで周知し、当日その場で2種類のメニューから選ぶ	延べ 44
リフレッシュ体操 (スポーツ東京案内事業)	9/13	外部講師を招いてフレイル予防に繋がる体操	14
敬老会	9/17	昼食時に賀寿のお祝い、お祝い膳	23
冬の夕食会	12/14	夕食時にリクエストの多い握りずしの提供	22
季節の湯	12/22	冬至の日に希望者にゆずを配布	23
新年のお祝い膳	1/1	昼食時に新年会を実施	22
お役立ち講座	1/17	外部講師を招いて耳の聞こえについての講座	10
節分(豆まき)	2/2	昼食時に節分豆と甘納豆を配布し、1階正面玄関前での豆まきを実施	延べ 36
キッチンカー	3/15	新しい形でのお花見機会の提供。キッチンカーで焼きたてのパイやマドレーヌなどを購入	延べ 24

(2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数(実施月)	活動概要、他
さわやか健康 クラブ	月 1 回	体操のインストラクターによる健康体操。年度内で2回の筋力測定実施。
音楽アクティビティ	月 1 回 (10 月より 試行的に開始)	音楽講師を招いて唱歌や歌謡曲を歌いながら体を動かす機会の提供。次年度は月 2 回の定期開催。
手作りの会	月 1 回 (中断あり)	地域のボランティアによる小物づくり教室。
傾聴・活動 ボランティア	月・火を中心に実施 (不定期)	4名のボランティアが傾聴や活動補助を実施。傾聴以外にも天候の良い日などはケアハウス周辺を共に散歩する等。
入居者懇談会	年 6 回 (偶数月実施)	入居者と職員による懇談会。 (意見交換、行事等の案内、利用上のルール等確認)
避難訓練	年 6 回 (5・6・8・10・12・2月)	学生寮生と合同の日中・夜間想定防災訓練。 (今年度は感染対策を実施して学生も参加)
健康相談	週 1 回	配置医師による健康面、持病等に関する相談。今年度は全入居者との面談を実施。

7 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

(1) 募集・選考

令和5年度も3回(6月、10月、1月)入居募集を実施、6月に一人居室1室と二人部屋2室、10月と1月に二人部屋2室の募集を行った。6月募集の一人部屋には4名の応募があったが二人居室は申し込みなく、抽選の結果9月に一人居室に1名が入居した。二人部屋はケアハウスの外壁にもボ

スターを貼るなど周知し、問い合わせも1～2件あるが面談の申し込みまでには至っていない。

＊年間通して、在宅介護・地域包括支援センターへの入居募集の紹介などを行いながら、3回の入居募集を積極的に実施した。

8 職員研修

(1) 前年度と同様にケアハウス全体で研修委員会を設置し、年間計画を立てて研修担当者による虐待防止・事故防止・感染症対策・大規模災害時の対応等の講義を行い、ケアハウス職員の資質向上を図った。取り急ぎ、職員の意識が他人事から我が事に変容し、自ら研修内容の必要性を理解して、他の職員にも周知徹底したことで相乗効果が得られた。

(2) 桜堤ケアハウス職員全体研修会の実施

開催日	研 修 内 容	参加者数
2/16(金)	桜堤ケアハウス全体研修会 ～社会人としての基本的マナー及び障害者虐待防止法の概要、災害時における食事提供の方法を学ぶ～ ① 人権擁護等の法令順守・マナーについて ② 災害時における食事提供の方法について ③ 障害者虐待防止法の概要	16名

9 苦情受付件数 0件

10 人権擁護虐待等受付件数 0件

11 その他

(1) 大規模修繕等の工事について

工 事 名 称
28年目を迎えて大規模工事はないが、エレベーター調速機器の差し替え工事と屋上の貯湯槽タンク配管水漏れ工事を行った。

(2) 新型コロナウイルス感染症に対する対応について

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したのを機に感染状況を確認しながら感染防止対策を少しずつ緩和した。一方で集団生活でもあるため予防策（黙食、マスク着用・手洗い・手指消毒等）の周知徹底を図った。

1日2回の検温は継続、体調不良時は早めの受診や嘱託医への相談を促し、今年度は新型コロナウイルス感染症の罹患者は発生しなかった。体調不良者に対しては嘱託医の指導や助言をもとに、保証人とも連携を図りながら体調が安定するまで居室で過ごしていただくようお願いした。

引き続き、新型コロナウイルス感染症以外にもインフルエンザや感染性胃腸炎などの流行期には、感染予防対策の注意喚起を行い感染予防に努めていく。

19 桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター

1 事業運営

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、地域にお住まいの高齢者やその家族に対して、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整や、権利擁護に関する支援など、24 時間 365 日絶え間なく行ってきた(電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送)。また、市役所内にある「基幹型地域包括支援センター」との協力体制を取りながら、地域包括ケアシステム実現・推進に向けて取り組みを行ってきた。あわせて、地域で活動する民間ケアマネジャーに対して、相談・支援等のサポートも充実させてきた。

年々増加している複雑化・多様化する相談や複合化する課題解決に向けて、外部機関との連携や専門機関からレクチャーを受けるなどの専門的な知識の向上に努めてきた。

地域においては、地域住民や地域の事業所に支えられながら在宅生活を送るケースにスポットを当てた個別地域ケア会議、桜堤 3 丁目の地域課題にスポットを当てたエリア別地域ケア会議を開催した。あらかじめテーマを設定したことでスムーズな運営を行うことができ、地域住民や関係機関、市役所などと、住み慣れた地域で長く生活していくためのヒントや課題について考える機会をつくることができた。

また、当圏域内にある 9 カ所のいきいきサロンについては、生活支援コーディネーターが中心となって運営の維持・存続に努めた。

家族介護支援においては、桜堤・境・関前全ての地区で講座やイベントを開催し、地域との顔の見える関係づくりを行ってきた。

その他にも「いきいき健康 地域プロジェクト」では、UR と共催でフレイル予防に関するプログラムを実施し、老人会、地域の団体に対して、介護保険に関する講座や認知症、フレイル予防に関する講座も行い、地域のネットワークづくりを充実させてきた。その中でも、11/3 に開催した「ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤」は、地域住民の方たちに、地域にある事業所・施設を知っていただく機会となり、桜堤ケアハウス周辺の事業所・施設である「みゅうちゅある」「サンセール武蔵野」「さくらえん」と協催したことで、事業所・施設間の横のつながりを深めることができた。令和 6 年度も引き続き開催実施していく。

2 相談の状況と支援・活動内容

(1) 在宅介護支援センター事業

①延べ相談件数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	338	305	318	306	390	343	364	314	344	324	318	302	3,966

*年々相談は増加傾向

②相談実人数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	298	244	260	250	308	272	292	256	294	267	271	268	3,280

*年々相談は増加傾向

③実態把握

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	173	139	146	150	191	161	164	150	186	153	149	143	1,905

※年々相談は増加傾向

④認定調査件数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	42	47	39	65	79	54	55	53	72	64	47	49	666

※新規同行調査：144 件

⑤ケアプラン作成数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護 (件)	2	3	4	5	3	4	5	3	4	6	4	4	47
予防 (件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

※民間ケアマネジャーが対応することがむずかしいケースを中心に担当

(2) 地域包括支援センター事業

①虐待防止(虐待対応件数) : 8 件 ※重複あり

身体的：5 件	経済的：0 件	心理的：2 件	性 的：0 件	介護放棄：1 件
---------	---------	---------	---------	----------

②権利擁護等対応件数 : 46 件 ※重複あり

成年後見制度関連：40 件	消費者被害：0 件	困難事例：6 件
---------------	-----------	----------

③地域連携等件数 : 186 件

地域連携会議：37 件	介護予防啓発：10 件	他機関との連携：139 件
-------------	-------------	---------------

④ケアマネ支援件数 : 736 件

個別の相談：349 件	同行訪問：349 件	担当者会議へ出席：38 件
-------------	------------	---------------

※地域包括 3 職種以外の職員も専門的な相談を受け、随時対応を行っている

(3) 認知症相談

開催日	4/19	7/19	10/18	1/24	合計
件数 (件)	1	1	1	2	5

※年 4 回場所を提供し、職員が相談に立ち会う

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 家族介護者教室

開催日	5/11	7/11	10/24	12/12	2/13	3/12	合計
テーマ	在宅介護・地域包括支援センター紹介	今日からできるフレイル対策！食事編～熱中症対策もお伝えします～	福祉用具について	スマホ教室	楽しくみんなでフレイル予防～いつまでも健康に～	耳の聞こえ講習会	68 人
参加人数	6 人	10 人	13 人	12 人	18 人	9 人	
開催場所	関前コミュニティセンター	武蔵野プレイス スペース C	サンヴァリエ桜堤中央集会所	グランダ武蔵野武番館	サンヴァリエ桜堤中央集会所	西部コミュニティセンター	

(2) 地区別ケース検討会（11回）

開催日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数（人）	24	21	21	25	休会	20	23	25	19	16	16	19	229

＊毎月1回開催される、在支・包括が主催するケアマネジャー参加の勉強会

(3) 地域ケア会議（エリア別1回・個別3回）

会議種別	エリア別	個別			合計
開催日	11/28	6/27	9/26	9/28	
参加人数（人）	11 人	8 人	8 人	8 人	35 人

＊毎年エリア別1回、個別3回開催のノルマあり

(4) 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座・地域認知症講座

① 認知症サポーター養成講座

開催日	7/31	8/15	9/19	合計
参加人数	12 人	30 人	10 人	
開催場所	テンミリオンハウス きんもくせい	武蔵野プレイス	境2丁目都営	
参加団体	市民	市民	市民	52 人

② ステップアップ講座

開催日	11/30	合計
参加人数	24 人	
開催場所	武蔵野スイング スカイルーム／境南ふれあい広場	24 人

③地域認知症講座

開催なし

(5) 民生児童委員との定例会（2回）

開催日	7/26	2/27	合計
参加人数	16 人	12 人	28 人

(6) 地域連携に関わる講座

開催日	7/4	7/11	7/16	9/16	10/18
参加人数	14 人	15 人	19 人	18 人	14 人
テーマ	エンディング講座	福祉用具紹介	認知症について	在宅介護・地域包括支援センターの機能について	介護保険サービスの利用と相談窓口について
開催場所	境2丁目都営	関前コミュニティセンター	ふるさと歴史館	サンヴァリエ桜堤中央集会所	桜堤コミュニティセンター
参加団体	いきいきサロンさわやか	関前福祉の会	西交会	さくら会	桜寿会
開催日	3/19	合計			
参加人数	15 人	102 人			
テーマ	介護保険・福祉の制度説明				
開催場所	サンヴァリエ桜堤第一集会所				
参加団体	松の家				

*老人会、コミセン、福祉の会をはじめとした地域の団体からの講座依頼あり

4 支え合いの仕組みづくり・介護予防

(1) いきいきサロン事業（9か所）

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど保健室	毎週 水曜日 10:00～12:00	健康講座、手話ソング、ボッチャ、コグニサイズ等	H29 年度
マルセサロン	毎週 木曜日 14:00～15:00	朗読、塗り絵、折り紙等	H29 年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00～16:00	カラオケ等	H28 年度
どんぐり広場	毎週 金曜日 14:00～16:00	体操、脳トレ等	H30 年度

ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00～16:00	書道、ちぎり絵、折り紙、ミニボウリング、食と健康講座等	H28 年度
なのはなサロン	毎週 日曜日 10:00～11:30	軽体操、タオル体操、座ってフラダンス、ボッチャ、風船ゲーム、合唱等	H29 年度
サロンきずな	毎週 水曜日 10:00～12:00	ふまねっと、テーブルテニス、輪投げ、ボッチャ、トランプ、脳トレ、ジェンカ、手話ソング	R4 年度
さわやか	毎週 火曜日 13:00～15:00	茶話会等	R3 年度
青空サロン	毎週 火曜日 13:00～15:00	健康体操、ボッチャ、輪投げ、カラオケ等	R5 年度

＊月 1 回、生活支援コーディネーターがいきいきサロンのモニタリングを実施。また、適宜運営支援等を実施

(2) いきいき健康 地域プロジェクト ＊(1)家族介護者教室にも掲載

開催日	2/13	合計
参加人数	18 人	18 人
テーマ	楽しくみんなでフレイル予防～いつまでも健康に～	
開催場所	サンヴァリエ桜堤中央集会所	
参加団体	UR と共催 つつじ鍼灸整骨院、市役所高齢者支援課	

5 職員研修

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数 (件)	0	7	3	8	6	2	3	6	1	2	9	11	58

＊研修内容内訳：

ケアマネジャー更新研修・主任ケアマネジャー更新研修・権利擁護研修・精神保健福祉研修・市内在宅介護・地域包括支援センター研修他

6 苦情受付件数

1 件

7 人権擁護虐待等受付件数

0 件

20 武蔵野市放課後等デイサービスパレット

1 事業運営

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の放課後等デイサービス事業として運営している。事業対象児は就学児の6歳から18歳で、1日の定員は10名。武蔵野市の方針として、利用要件は主に身体障害児および医療的ケアが必要な児童で、かつ保護者が就労している児童が優先となっている。

令和5年度は保護者が就労している児童を新たに3名、就労無しの児童を4名受け入れている。また、長期休暇のみの利用児として2名を新たに受け入れた。

2 利用児の状況と活動内容

(1) 年齢別利用児数

(令和6年3月31日現在 単位：人)

	小学低学年生	小学高学年生	中学生	高校生	合 計
男児	3	5	2	1	11
女児	4	3	4	0	11
合計	7	8	6	1	22
内、車いす通所	2	2	4	1	9

(2) 通所実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
予定	146	140	157	149	181	144	151	140	158	151	140	172	1,829
実績	116	124	118	104	121	121	121	108	133	127	112	135	1,440
利用率	80.1%	88.6%	75.2%	69.8%	66.9%	84.0%	80.1%	77.1%	84.2%	84.1%	80.0%	78.5%	78.7%
日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243

(3) 提供時間及び活動内容

【サービス提供時間】

- ・学校終了後：14:30～18:00
- ・学校休業日（振り替え休業日・春休み・夏休み・冬休み）：9:30～17:00

【活動内容】

- ・個別支援計画に沿って、遊びや活動を通して、基本的生活動作の練習や社会性の向上などの発達支援を行った。
- ・自立支援と日常生活の充実のための活動として、基本的日常生活動作の獲得や上達のため職員の支援を受けながら自分でできること、支援を受けながら行えることを確認してきた。一人でできた時や協力動作があった時には、本人とできたことを共有していくことで達成感や自己肯定感が味わえるよう配慮している。

- ・創作活動では、自然を感じられる様に積極的に外出する機会を設けた。職員からの季節を感じられる言葉かけをしたり、種植えや水やり等の植物を育てる体験を行ったりした。また季節に合わせたイベントを行っている。
- ・地域との交流の機会の提供として、桜堤児童館を利用し普段とは違う環境、地域の児童がいる中で過ごす活動を行った。また、桜堤ケアハウスの入居者からの言葉かけや、信陽舎の学生アルバイトと関わる機会も設けている。普段関わりが少ない方々からの言葉かけにより、利用児もより刺激を受けている様子が窺える。
- ・余暇の提供では、児童の興味のある遊びを考えて提供してきた。その中で、好きな遊びを他児や職員と行ったり、個人だけでなく複数で活動する時間を設けたりと、興味の幅を広げながら放課後の時間を楽しく過ごせる場になるよう設定して、支援に努めた。

3 地域関連機関や団体との連携

- (1) 教育委員会と大野田小のスクールバス送迎の調整
- (2) 送迎ルートの調整や対象児の相乗り等を含めたりニエプラッツ武蔵野との打ち合わせ
- (3) 武蔵野市学童保育指導員派遣研修受け入れ(4名)
- (4) みどりのこども館通園部ウィズ、相談部ハビットとの応援体制、医療的ケア児打ち合わせ
- (5) アルバイト(信陽舎学生6名)
- (6) 大学生ボランティアの受け入れ(5名)

4 職員研修

- (1) 事業所研修…虐待防止研修、情報セキュリティ研修、感染症対策研修
- (2) 法人研修…3年目研修、中堅層リーダー研修、ハラスメント研修、実践発表会、上級救命講習
- (3) 外部研修…子育て支援ネットワーク、小平特別支援学校見学、府中けやきの森学園見学
小金井特別支援学校説明会、こころといのちの基礎研修

5 苦情受付件数 1件

6 人権擁護虐待等受付件数 0件

21 特別養護老人ホームゆとりえ（ショートステイ含む）

1 事業運営

令和5年度は特別養護老人ホーム（以下、特養ホームという）の利用率が低下した前年度90.9%からの回復を目指したが、90.7%と改善できなかった。ショートステイを含めた全体の利用率も92.6%から92.7%とほぼ横ばいとなっている。年間の退所者が13名と昨年度の11名よりさらに多く、重度の待機者の減少などから新入居までに時間を短縮できなかったことが大きい。

新型コロナウイルス感染予防のために中止していたご家族を交えた敬老会や地域住民主体のイベント、直接利用者と接するボランティアなどを徐々に再開。ご家族との面会も、窓越し及びオンライン面会から5月より2階特養ホールでの対面とするなどコロナ前の日常を取り戻すよう取り組んでいる。看取り期の利用者に関しては2階居室や静養室での対面面会は継続できている。幸い入居者の新型コロナウイルス感染症への感染は見られなかった。

職員体制が厳しい1年だった。介護職員の退職や休職が続き、通常の職員配置が難しくなったため、派遣職員や日々紹介を活用しながら安全な環境を整えるよう努めた。日常の余暇の充実が難しかったが、季節行事など入居者に生活の楽しみや潤いを感じてもらえるよう取り組んでいる。

2 利用者の状況と支援・活動内容

(1) 利用実績

① 利用人数（特養定員30名、ショートステイ2名＋空ベッド）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
特養入居者	863	861	772	762	795	817	897	854	869	831	767	843	9931
ショートステイ	65	68	72	82	87	90	69	73	82	65	65	79	897

② 入退所

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
退所（人）	0	4	0	2	0	0	1	1	1	1	1	2	13
うち看取り	0	3	0	2	0	0	0	1	1	1	1	2	11
入所（人）	1	0	2	0	3	2	0	0	1	1	1	1	12

* 要介護度の改善により退所、在宅復帰された方が1名いる。

③ 介護度状況

要介護	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
延べ人数（人）	30	0	500	2,785	6,616	9,931	4.60
割合	0.3%	0%	5.0%	28.0%	66.7%	100%	
ショートステイ	41	248	266	201	141	897	3.17

④ 年齢構成（令和6年3月31日現在）

年代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計	平均年齢
男性	0	1	2	2	0	5	88.2
女性	0	2	9	9	2	22	89.1
合計	0	3	11	11	2	27	89.0

⑤入所希望待機者（令和6年3月31日現在）

要介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均要介護度
入所希望人数	1	13	92	88	67	261	3.79
割合	0.3%	4.0%	36.4%	33.7%	25.6%	100%	

3 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

(1)排泄介助

自立者	4人	昼夜トイレ介助	2人
昼夜オムツ交換（排便時トイレ介助）	9人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	12人

(2)食事介助

①摂取状況

自立者	6人	見守り・声掛け・一部介助	11人
経管栄養（胃ろう）	3人	全介助	7人

②食事形態

普通食	8人	刻み	7人
一口大	4人	ペースト・一部ペースト	9人

③補助食品

高栄養ドリンク	1人	トロミ剤使用	13人
高栄養デザート	1人	粉飴使用	5人

(3)入浴介助

個別浴槽（自立・一部介助等）	1人	個別浴槽（電動リフト使用）	17人
機械浴槽	9人		

(4)医療・看護ケア(延べ人数)

①医療的ケア

経管栄養（胃瘻）	3人	痰の吸引	3人
バルーンカテーテル（膀胱洗浄）	0人		

②通院

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院件数（件）	8	6	11	6	6	12	7	5	6	1	8	5	81
救急搬送（件）	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2

③入院

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入院者数（延）	0	0	1	1	1	2	2	0	0	1	1	1	10

④夜間オンコール件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ゆとりえ	0	5	0	2	1	0	1	2	2	0	0	1	14
夜間臨時出勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑤歯科診療

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
協力歯科(人)	5	5	7	5	5	5	6	5	7	6	7	7	70
歯科診療(件)	15	7	10	11	20	7	7	7	12	14	13	14	137

4 主な行事

5/2～8	菖蒲湯	6/10	家族懇談会
7/7	七夕行事	8/13	スイカ割り
8/20	盆法要	9/9	御神輿来所
9/17	敬老会	10/18	収穫祭
12/3	クリスマスツリー装飾会	12/25	クリスマスランチ
12/19～12/21	柚子湯	12月～1月	年末年始
1/17	餅つき	2/3	豆まきの会

※中止（ハンカチの木バザー、工作活動、お茶会、近隣学校保育園交流等）

※敬老会のご家族を招いて実施。

5 ご家族面会

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
面会回数(回)	2	23	17	12	8	14	22	23	26	23	21	25	216

※感染に配慮し、一日3枠（14時、15時、16時）の予約制として、面会スペースにて1組30分の面会時間を設けて対応している。

※看取り対象の入居者については、一定の条件下で対面面会を行っている。

6 スペース開放（秋桜の会：失語症の会 第2土曜日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	6		7	8		8	4	5	5	6	7	7	63

7 職員研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内部研修(人)	3	0	0	14	4	14	0	16	37	17	19	2	126
外部研修(人)	0	0	3	2	1	2	11	3	6	5	1	2	36

※研修内容内訳：新規採用職員研修、感染予防（ガウンテクニック、初動対応、吐物処理）、身体拘束、2年目職員研修、情報セキュリティ、看取りケア、虐待防止、認知症ケア、中堅層リーダー研修、褥瘡防止、ターミナルケア、ハラスメント、認知症介護基礎研修、認知症介護実践者研修、痰の吸引、介護支援専門員研修、生活相談員（介護報酬改定）研修、上級救命

8 苦情受付件数

0 件

9 人権擁護虐待等受付件数

0 件

10 その他

(1)利用者調査実施（第三者評価と隔年実施）

*10/30 利用者聞き取り（8名）および利用者家族調査票調査（回収数 21）

(2)暮らしの保健室 mini（デイサービス家族介護支援プログラム 8/6 参加）

22 ゆとりえデイサービスセンター

1 事業運営

今年度より定員 40 名 ➡ 30 名、また職員体制上の理由から入浴も年度途中より 7 名 ➡ 6 名へ変更している。5 月よりコロナウイルス感染症対策を緩和し、消毒作業の回数を減らし、パーティションの使用を食事などに限定した。活動も前年度同様カラオケはマイク未使用を継続したが、お話の会や染物活動を再開し、利用者のニーズに合わせ木曜日の書道を手芸へ変更している。

近隣の保育園との直接交流や地域のコーラスグループの発表会などを再開している。保育園とのつながりでは今まで交流のなかったピカピカ保育園と交流を開始している。また、お休みされていたプログラムのボランティアも活動再開している。その他通常のプログラムに加え、イベント食や近隣散歩、お花見ドライブ等を実施している。

前年度より職員が 1.5 名減少し、週 2 日の周辺業務と週 2 日の朝の添乗業務のみの非常勤職員は継続し、業務分担を行った。日常的に生活相談員が添乗や介護業務に入り、前年同様の感染症対策を行った。職員の体調不良などが重なり、1 日介護員 3.5 名の職員体制で対応することもあった。看護師の長期休業に対して訪問看護ステーション連携を導入した。

年度前半と年度末に新規問い合わせが増加したが、他の時期は問い合わせの減少、入院、入所が増加し、登録者数の減少と長期でお休みされる方も多く稼働率が低下している。

利用者の特徴としては、前年度同様医療対応の方は少ないが登録者の約 7 割の利用者が認知症などの症状が見られている。また、何かしらの支援が必要な方が 8 割以上在籍されている。個別対応が必要な方は以前よりも減少し 1 日の中で多くても 1 名程度となっている。

その他、介護保険外（入所先より）での利用者が 1 名いる。

2 デイサービス利用者の状況と支援・活動内容

(1) 利用実績

① 利用人数（9：00～16：30 定員 30 名）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ要介護者	455	525	471	406	468	434	469	441	406	358	363	358	5,154
延べ介護予防	5	8	13	12	11	14	8	8	10	8	12	13	122
稼働率	76.7	77.2	73.3	66.3	69.4	71.1	72.3	68.0	66.0	61.0	59.5	58.9	68.3
登録数（1 日現在）	61	61	65	58	57	59	58	52	52	47	44	46	

② 介護度別利用延べ人数

要介護	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均要介護度
延べ人数（人）	1,132	2,085	1,190	314	433	5,154	2.39
割合（％）	22	39	24	6	9		
介護予防	要支援 1	要支援 2	総合事業	合計			
延べ人数（人）	50	72	0	122			
割合（％）	41	59	0				

③ 年齢構成（令和 6 年 3 月 31 日現在）

年代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	100 歳代	合計	平均年齢
男性	0	0	2	1	1	4	93.5
女性	0	3	16	18	3	40	89.9
合計	0	3	18	19	4	44	91.7

④入浴利用者数

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ入浴者数	95	106	77	64	73	55	56	54	67	49	48	54	798

⑤給食

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ提供数	460	533	484	418	479	452	477	449	416	368	375	371	5,282

⑥送迎

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用数	882	1035	924	796	911	856	919	865	791	700	711	702	10,092

⑦医療処置

処置内容	延べ人数
在宅酸素	0人

＊施設ボランティア懇談会、地域ボランティア懇談会は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため未実施

(2) サービス提供内容

①週間スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
午前	○健康チェック（血圧、脈拍、顔色など） ○体操（スウェーデン体操、音楽体操） ○うた（木曜日 ボランティア） ○排泄ケア ○入浴＜月～金曜日＞				
昼食	○食事介助 ○服薬 ○口腔ケア ○排泄ケア				
午後	手芸 アートクラブ カラオケ 移動美容室 （偶数月） 個別対応 個別機能訓練	絵手紙 カラオケ 書道 手芸 個別対応	みどりの会 カラオケ 個別対応	手芸 カラオケ お話の会 個別対応	コーラス 手芸 唱歌の会 染物 個別対応 個別機能訓練

＊カラオケはマイクを使用しない。麻雀は活動なし。書道のボランティアさんは健康上の理由で活動が困難となり、自主練習で活動している。お話の会が再開している。

木曜日手芸希望の方も増え、書道から手芸へ活動を変更している。

②主な行事

行事・活動名	期 日	内 容
花見ドライブ	3/	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/13～15	楽器演奏やマジックショー、祝膳で楽しむ
新年会	1/10～12	楽器演奏や福引大会 2 日間、祝膳を楽しむ
コンサート	46 回	音楽クラブ 22 回・うたクラブ 24 回 地域のコーラスグループ 1 回
近隣学校との交流	随時	近隣保育園発表・交流、三中よりお花の鉢寄付
「食」に関する活動	随時	イベント食(10 回)
ボランティア	年 2 回	夏体験ボランティア 春体験ボランティア
その他		移動美容室(6 回)

3 武蔵野市受託事業

(1) 配食（おせち含む）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数（食）	5	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17

(2) 会食型食事サービス（ゆとりえキッチン）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実施日数（日）	4	3	5	4	3	5	4	3	4	4	3	4	46
利用数（食）	1	5	18	12	8	14	16	6	8	14	10	14	126
テイクアウト	14	13	19	12	9	20	6	5	6	10	10	11	135

＊テイクアウトはゆとりえ独自サービス

(3) 家族介護支援プログラム（家族懇談会）

①暮らしの保健室 mini（個別、グループによる医療・介護等相談の場）

利用月	4	6	8	10	12	2	合計
参加者数（人）	6	6	7	8	7	7	41
相談者数（人）	1	3	1	3	1	1	10

＊東部福祉の会、吉祥寺東コミュニティ協議会、本宿コミュニティ協議会、市民社協、ゆとりえによる実行委員会で開催。東コミセン、本宿コミセンで交互開催

②ゆとりえオンライン家族介護者グループ相談会

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談者数（人）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

＊12月より対面 or オンライン個別相談会へ変更

4 地域貢献事業

(1) 食事の提供

①もったいない食堂ちょこっと応援弁当（特養・デイ事業）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数（食）	7	10	9	8	13	8	16	10	11	13	14	6	125

＊毎週水曜日昼食テイクアウト弁当 200 円 10 食限定。武蔵野市子ども・コミュニティ食堂ネットワーク参加事業

②ゆとりえ独自配食（特養・デイ事業）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用数（食）	119	135	133	133	143	150	165	186	175	167	147	141	1,794

＊月曜日～金曜日（祝日あり）昼配食弁当 500 円。市配食と併せて 1 日 15 食限定

5 地域関連機関や団体との連携

(1) 実習生受入（特養・デイ・支援での延べ人数）

武蔵野第三中職場体験学習	中止	杏林大学・看護学生実習	0 人
社会福祉士現場実習	8 人	教員介護等体験実習	67 人
その他	0 人	合計	75 人

(2) ボランティア活動

① ボランティア活動実績（特養・デイ共通）

① 特別養護老人ホームでの活動		
洗濯物たたみ	386 人	
整容	13 人	
食事下膳	80 人	
余暇活動、他（お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他）	中止	小計 479 人
② デイサービスセンターでの活動		
フロア活動（配下膳、話し相手等）	388 人	
趣味活動等（プログラム活動講師・助手、補助等）	249 人	
コンサート、小学生、保育園児、他	70 人	小計 707 人
③ その他の部門での活動		
植栽、庭水まき	69 人	
事務連絡会、バザー他	中止	小計 69 人
		合計 1,255 人

* ハンカチの木バザーは中止

② ボランティアポイント（ポイント数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
シニア支え合い	8	10	10	10	8	6	6	0	0	0	0	4	62
ゆとりえポイント	54	64	52	38	50	49	47	62	73	86	82	69	726

* シニア支え合いポイントは市の受託事業。ゆとりえボランティアポイントは独自サービス

5 職員研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加件数（件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	3

* 研修内容内訳：認知症研修、デイ情報交換会（認知症研修）、虐待防止研修、介護保険改正に備えて福祉公社事業報告会に参加

6 苦情受付件数 0 件

7 人権擁護虐待等受付件数 0 件

23 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センター

1 事業運営

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等のを24時間366日行った。

住民主体のさまざまな支え合いや地域づくりへの取り組みを、生活支援コーディネーターはじめ職員が一丸となってい、場所や担い手、講師になり得る人材等を具体的に発掘した。

また、前年度から発展して、吉祥寺東町に集いの場を立ち上げるために実現可能な話し合いをエリア別地域ケア会議で行い、9月から吉祥寺東町2丁目に新たな集いの場が立ち上がった。

介護予防の取組では、ゆとりえ・宮本小路公園・御殿山吉祥寺教会でのラジオ体操が定例化し、ゆとりえの圏域で延べ548名の地域住民が参加した。更に、地域のスポーツクラブと共同で行った武蔵野市と共催の圏域イベントを含め、身体的フレイル予防を強化した。

吉祥寺南町では、南町福祉の会と共催の認知症カフェ「カフェ♥君の名は」を家族介護支援事業に位置づけ、カフェは年6回、そのうち3回は講演会と同時開催とし、延べ134名が参加した。他、地域連携にかかわる講座では、地域の社会資源からの依頼でオンラインを活用し、広域に発信するセミナーで講演するなど、新しい形で参加した。

個別相談支援の特徴としては、精神疾患を抱える家族や家族介護力不足により生活の限界点を迎える高齢者等、世帯全体を多職種と連携して支援する必要がある困難なケースが更に増加した。

2 相談の状況と支援・活動内容

(1) 相談実績

① 延べ相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	278	282	305	318	354	273	323	308	254	274	255	285	3,509

② 相談実人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数(人)	238	246	253	253	272	221	262	249	218	226	218	237	2,893

③ 実態把握件数(訪問+支援方針会議)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	131	146	157	171	178	120	152	157	137	122	126	167	1,764

④ 認定調査件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
更新調査件数	40	42	45	58	77	46	58	53	45	55	41	53	613
新規同行件数	9	8	16	9	11	8	16	12	14	9	14	13	139

⑤ ケアプラン作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護給付(件)	9	10	10	9	8	8	9	9	11	10	10	10	113
総合事業(件)	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13

(2) 地域包括支援センター事業の報告

①虐待防止(虐待対応件数) : 9件 *重複あり

身体的: 4件	経済的: 0件	心理的: 3件	性的: 0件	介護放棄 2件
---------	---------	---------	--------	---------

②権利擁護等対応件数: 37件 *重複あり

成年後見制度関連: 23件	消費者被害: 0件	困難事例: 14件
---------------	-----------	-----------

③地域連携等件数 : 459件

地域連携会議: 91件	介護予防啓発: 154件	他機関との連携: 214件
-------------	--------------	---------------

④ケアマネ支援件数 : 197件

個別の相談: 75件	同行訪問: 79件	担当者会議へ出席: 43件
------------	-----------	---------------

*地域包括3職種以外の職員も専門的な相談を受け、随時対応を行っている

(3) 認知症相談

開催日	5/10	11/1	8/2	2/7	合計
件数(件)	3	4	0	2	9

*電話相談は3件、6件は対面で行った。年4回場所を提供し、職員が相談に立ち会う

3 地域関連機関や団体との連携

(1) 家族介護教室

①ほほえみサロン(認知症カフェと同日開催講演会)

開催日	7/22	11/25	1/27	合計
テーマ	栄養講座	聴こえの講座	高齢者が注意すべき薬の講座	
開催場所	ゆとりえ	ゆとりえ	ゆとりえ	
参加人数(人)	12	10	15	

②認知症カフェ(カフェ♥君の名は)

開催日	5/27	7/22	9/23	11/25	1/27	3/16	合計
参加人数(人)	18	29	21	24	27	15	134

*ゆとりえデイルームにて南町福祉の会と共催

(2) 地区別ケース検討会(11回)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	19	17	25	23	休会	22	20	22	21	21	14	22	226

*毎月1回開催される、在支・包括が主催するケアマネジャー参加の勉強会

(3) 地域ケア会議(エリア別1回・個別3回)

会議	エリア別	個別			合計
開催日	8/8	12/13	1/12	3/7	
参加人数(人)	31	14	9	7	

(4) 認知症講座

① 認知症サポーター養成講座

開催日	10/18	合計
開催場所	武蔵野商工会館	
参加団体	一般市民	
参加人数（人）	11	11

② 認知症ステップアップ講座

認知症コーディネーターの担当なし

③ 地域認知症講座

認知症コーディネーターの担当なし

(5) 民生児童委員との定例会（2回）

開催日	7/24（1回目）	2/19（2回目）	合計
参加人数（人）	20	18	38

(6) 地域連携に関わる講座

開催日	11/10	11/11	11/13	3/12	合計
開催場所	メガロス 吉祥寺	あいらいふ 吉祥寺店	おもてなし サロン	本宿コミセン	
参加団体	地域住民	地域住民 オンライン併用	サロン参加者	地域住民	
テーマ	フレイル予防	介護保険制度・介護 が必要になる前に	エンディング 講座	終末期の過ごし方セミナー	
参加人数（人）	10	19	7	10	

4 支え合いの仕組みづくり・介護予防

(1) いきいきサロン事業（2か所）

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
吉祥寺ささえ あいビレッジ	毎週金曜日 10:00～11:30	体操、うた、トーンチャイム、ハンドベル、手話ソング	H27 年度
公園口サロン	毎週火曜日 9:30～12:30	体操、卓球	H27 年度

* 月1回、生活支援コーディネーターがモニタリングを実施。また、適宜運営支援等を実施

(2) ラジオ体操

① ゆとりえラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
第1回（人）	10	11	15	9	0	5	12	8	0	11	14	0	95
第2回（人）	12	14	13	8	14	10	16	0	13	8	0	10	118
参加人数合計	22	26	28	17	14	15	28	8	13	19	14	10	213

* ゆとりえ中庭にて第2火曜日と第4木曜日に開催。（祝日は休み、雨天中止）

②公園ラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加人数(人)	14	16	0	13	9	0	12	13	16	15	17	0	125

＊宮本小路公園にて第2金曜日に開催。本町在宅介護・地域包括支援センターと共催

③御殿山ラジオ体操

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
第1回(人)	10	0	0	12	13	12	12	0	11	8	10	9	97
第2回(人)	12	16	9	13	10	11	12	0	8	7	8	7	113
参加人数合計	22	16	9	25	23	23	24	0	19	15	18	16	210

＊御殿山吉祥寺教会の中庭にて第1、第3金曜日に開催

(3)いきいき健康地域プロジェクト 楽しく！元気に！長生き！（圏域事業）

日付	2/16	合計
開催場所	メガロス吉祥寺	
参加団体	メガロス吉祥寺、武蔵野市健康課、ゆとりえ	
テーマ	フレイル予防（栄養と運動）	
参加人数（人）	AM 7 PM 10	17

5 職員研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
参加件数(件)	2	5	3	8	4	7	3	3	3	6	4	6	54

＊研修内容内訳：地域包括職員向け・ケアマネジャー更新・認知症コーディネーター関連・生活支援コーディネーター関連・権利擁護・高齢者虐待防止・対応力向上など

6 苦情受付件数 0件

7 人権擁護虐待等受付件数 0件

8 その他（課題）

- ① 吉祥寺東町で発掘した資源をどのようにマッチングさせ、新たな集いの場などの活動につなげていくかの立ち上げ支援をおこなうこと。
- ② 虐待ケースや、支援か介護か認定が出ないケースなど、ゆとりえの居宅が担当するケースが増加すると予想される中、相談支援との業務のバランスをどのように調整するか。

24 R E N G A収益事業

1 事業運営について

令和2年度末で、重度身体障害者グループホームR E N G Aをグループホームの再編により事業転換し、令和3年11月より収益事業を開始した。市内の社会福祉法人に建物を貸すことで、木造2階のレンガ作り風の建物はこれまで通り福祉事業を継続し、地域福祉に寄与することとした。

令和5年度は大規模修繕もなく、近隣と友好的に事業を継続することができた。得られた収益は、将来の修繕等にかかる費用に充てるため、修繕費積立金として積み立てた。

2 事業概要

- | | | |
|------------|---|--|
| (1) 建物概要 | 建物名称 | R E N G A |
| | 所在地 | 武蔵野市八幡町3-3-26 |
| | 構 造 | 木造2階建て |
| | 床面積 | 284.76㎡ |
| (2) 事業内容 | 1階 | 放課後等デイサービス事業 10名（定員／1日）
（第2種社会福祉事業） |
| | 2階 | ガイドヘルパー派遣事業（移動支援、同行援護）
（第2種社会福祉事業） |
| (3) 賃貸期間 | 令和3年11月1日～2年毎に更新 | |
| (4) 賃 借 料 | 550,000円（月額） | |
| (5) 賃 借 人 | 社会福祉法人おおぞら会 | |
| (6) 事業サポート | ① 定期的な設備メンテナンス（電気設備点検、消防設備点検）
② 建物維持のための修繕工事等の検討、確認
③ 近隣住民等と良好な関係が築けるようサポート | |



R E N G A外観